

入札公告

当機構契約事務取扱細則（平成15年細則(調)第8号）第11条の規定に基づき、以下の一般競争入札（最低価格落札方式）を公告します。

2026年8月7日

独立行政法人国際協力機構
本部 契約担当役 理事

1. 業 務 名 称 : 2026-2029年度首都圏職員住宅入退去等管理業務
2. 競 争 に 付 す る 事 項 : 入札説明書第1入札手続1. のとおり
3. 競 争 参 加 資 格 : 入札説明書第1入札手続6. のとおり
4. 契 約 条 項 : 入札説明書第4契約書（案）のとおり。
5. 開 札 日 時 及 び 場 所 : 入札説明書のとおり。
6. 電子入札による入札執行 : 本業務の入札は電子入札システムで実施します。詳細については入札説明書をご覧ください。
7. そ の 他 : 入札説明書のとおり。

以 上

入札説明書

【電子入札システム対象案件 / 最低価格落札方式】

業務名称： 2026-2029年度首都圏職員住宅入退去等管理業務

調達管理番号： 26a00588

第1 入札手続

第2 業務仕様書（案）

第3 経費に係る留意点

第4 契約書（案）

2026/8/7
独立行政法人国際協力機構
国際協力調達部

【入札説明書の改訂（2024年10月）】

第1の5.（2）において、「3）人的関係 b）役職員等」について、一般財団法人及び一般社団法人の理事が対象となることが不明瞭であったことから、①iv.に追記しました。

第1の5.（5）において、d）（共同企業体構成員の提出書類）に変更（資本関係又は人的関係に関する申告書を追加）を行いました。また2024年4月以降、競争参加資格の確認結果は資格無しの場合のみ通知することに変更していますのでご注意ください。

第 1 入札手続

1. 競争に付する事項

- (1) 業 務 名 称 : 2026-2029年度首都圏職員住宅入退去等管理業務
- (2) 選 定 方 式 : 一般競争入札（最低価格落札方式）
- (3) 業 務 内 容 : 「第 2 業務仕様書（案）」のとおりに
- (4) 業務履行期間（予定） : 2026/10/1 から 2029/9/30

2. 手続き全般に係る事項

(1) 選定手続き窓口

国際協力調達部契約推進第三課

電子メール宛先 : e_sanka@jica.go.jp

※当機構からのメールを受信できるよう、当機構のドメイン（jica.go.jp）またはメールアドレスを受信できるように設定してください。

※メール送信後、送信アドレスに受信完了メールが届きます。

※当機構のメールシステムのセキュリティ設定上、zip形式のファイルが添付されたメールは受信不可となりますので、他の形式でお送りください。これにより難しい場合は、上記の連絡先までお問い合わせください。

(2) 日程

本案件の日程は以下の通りです。

入札説明書 該当箇所	提出期限、該当期間	授受方法	メール件名
3. 資料交付の申請	2026/8/18(火) 正午まで	メール	【配布依頼】（調達管理番号） _（法人名）
5. 入札説明書に対する質問提出	公告日 2026/8/19(水) から 正午まで	メール	【質問】（調達管理番号）_ （法人名）_入札説明書
5. 質問に対する機構からの回答	2026/8/27(木) 16時以降	—	—
7. 競争参加資格確認申請書の提出	2026/9/4(金) 正午まで	メール	【提出】（調達管理番号）_ （法人名）_競争参加資格確認 申請書
9. 入札書提出	質問回答翌日 2026/9/4(金) から 正午まで	電子入札 システム	—
11. 入札執行（入札会）の日時	2026/9/8(火) 15:00	電子入札 システム	—

3. 入札説明書資料の交付・閲覧

(1) 資料の交付方法

入札説明書の一部資料をGIGAPODを通じて希望者に交付します。以下のとおり、電子メールにて配布依頼をお願いします。

- 1) 交 付 期 間 : 2.(2) 日程参照
- 2) メ ー ル 件 名 : 【配布依頼】(調達管理番号)_(法人名)
- 3) 提 出 先 : 2.(1) 記載の電子メール宛先
- 4) 提 出 書 類 : 「機密保持誓約書」16. 様式参照

※代表者印等の押印を原則とします。

※押印が困難な場合は、「本件責任者及び担当者」の氏名、役職、所属先及び連絡先(電話番号及び電子メールアドレス)を必ず明記し、提出時の電子メールに責任者本人又は責任者にccを入れて送付してください。

- 5) 交 付 資 料 : ・首都圏職員住宅一覧(単身用、世帯用)
・物件案内書(現行使用しているもの)

4. 業務内容説明会

該当なし

5. 入札説明書に対する質問及び回答

入札説明書(業務仕様書(案)の内容等、契約書(案)の文言確認)に対する質問がある場合は、質問書に記入のうえ、電子データ(EXCEL形式)での提出をお願いいたします。

公正性・公平性等確保の観点から、電話等口頭でのご質問は原則としてお断りしていますのでご了承ください。

(1) 質問方法

- 1) 質 問 提 出 期 限 : 2.(2) 日程参照
- 2) メ ー ル 件 名 : 【質問】(調達管理番号)_(法人名)_入札説明書
- 3) 提 出 先 : 2.(1) 記載の電子メール宛先
- 4) 必 要 書 類 : 「質問書」16. 様式参照

(2) 質問への回答

提出期限までに提出いただいた質問及び回答については、機密保持誓約書を提出した全ての者に対して、電子メールにて配布します。

(3) 留意事項

回答書によって、仕様・数量等が変更されることがありますので、本件競争参加希望者は質問提出の有無にかかわらず回答を必ずご確認ください。

入札金額は回答による変更を反映したものとして取り扱います。

6. 競争参加資格

(1) 消極的資格制限

以下のいずれかに該当する者は、当機構の契約事務取扱細則(平成15年細則(調)第8号)第4条に基づき、競争参加資格を認めません。また、共同企業体の構成員や入札の代理人となること、契約の再委託先または下請負人(業務従事者を提供することを含む。以下同じ。)となることも認めません。

- 1) 破産手続き開始の決定を受けて復権を得ない者
具体的には、会社更生法（平成14年法律第154号）または民事再生法（平成11年法律第225号）の適用の申立てを行い、更生計画または再生計画が発効していない法人をいいます。
- 2) 独立行政法人国際協力機構反社会的勢力への対応に関する規程（平成24年規程（総）第25号）第2条第1項の各号に掲げる者
具体的には、反社会的勢力、暴力団、暴力団員、暴力団員等、暴力団準構成員、暴力団関係企業、総会屋等、社会運動等標ぼうゴロ、特殊知能暴力集団等を指します。
- 3) 独立行政法人国際協力機構が行う契約における不正行為等に対する措置規程（平成20年規（調）第42号）に基づく契約競争参加資格停止措置を受けている者。
具体的には、以下のとおり取扱います。
 - a) 競争参加資格確認申請書の提出期限日において上記規程に基づく資格停止期間中の場合、本入札には参加できません。
 - b) 資格停止期間前に本入札への競争参加資格確認審査に合格した場合でも、入札執行時点において資格停止期間となる場合は、本入札には参加できません。
 - c) 資格停止期間前に落札している場合は、当該落札者との契約手続きを進めます。

（2）積極的資格制限

当機構の契約事務取扱細則第5条に基づき、以下の資格要件を定めます。

- 1) 全省庁統一資格
令和07・08・09年度全省庁統一資格で、
「役務の提供等」
の資格を有すること。（等級は問わない）
- 2) 資本関係又は人的関係
競争に参加しようとする者の間に以下の基準のいずれかに該当する関係がないこと（基準に該当する者のすべてが、共同企業体の代表者以外の構成員である場合を除く）。
 - a) 資本関係：以下のいずれかに該当する二者の場合。
 - ① 子会社等（会社法（平成17年法律第86号）第2条第3号の2に規定する子会社をいう。②において同じ。）と親会社等（同条第4号の2に規定する親会社等をいう。②において同じ。）の関係にある場合
 - ② 親会社等を同じくする子会社等同士の関係にある場合
 - b) 人的関係：以下のいずれかに該当する二者の場合。ただし①については、会社等（会社法施行規則（平成18年法務省令第12号）第2条第3項第2号に規定する会社等をいう。以下同じ。）の一方が民事再生法（平成11年法律第225号）第2条第4号に規定する再生手続きが存続中の会社等又は更生会社（会社更生法（平成14年法律第154号）第2条第7項に規定する更生会社をいう。）である場合を除く。
 - ① 一方の会社等の役員（会社法施行規則第2条第3項第3号に規定する役員のうち、次に掲げる者をいう。以下同じ。）が、他方の会社等の役員を現に兼ねている場合
 - i 株式会社の取締役。ただし、次に掲げる者を除く。
 - ・ 会社法第2条第11号の2に規定する監査等委員会設置会社における監査等委員である取締役
 - ・ 会社法第2条第12号に規定する指名委員会等設置会社における取締役
 - ・ 会社法第2条第15号に規定する社外取締役

- ・ 会社法第348条第1項に規定する定款に別段の定めがある場合により業務を遂行しないこととされている取締役
 - ii 会社法第402条に規定する指名委員会等設置会社の執行役
 - iii 会社法第575条第1項に規定する持分会社（合名会社、合資会社又は合同会社をいう。）の社員（同法第590条第1項に規定する定款に別段の定めがある場合により業務を遂行しないこととされている社員を除く。）
 - iv 一般財団法人、一般社団法人及び組合の理事
 - v その他業務を遂行する者であって、i からiv までに掲げる者に準ずる者
 - ② 一方の会社等の役員が、他方の会社等の民事再生法第64条第2項又は会社更生法第67条第1項の規定により選任された管財人（以下単に「管財人」という。）を現に兼ねている場合
 - ③ 一方の会社等の管財人が、他方の会社等の管財人を現に兼ねている場合
 - c) その他入札の適正さが阻害されると認められる場合：組合（共同企業体を含む。）とその構成員が同一の入札に参加している場合その他上記a) 又はb) と同視しうる資本関係又は人的関係があると認められる場合。
- ※留意事項：競争に参加しようとする者の間で競争参加意思等の確認・相談を行うことは原則として認めていませんが、上記の資本関係又は人的関係に基づく競争参加制限を回避する目的として当事者間で連絡を取ることは、これに抵触するものではありません。
- 3) 日本国登記法人
日本国で施行されている法令に基づき登記されている法人であること。

（3）共同企業体

共同企業体の結成を認めます。ただし、共同企業体の代表者及び構成員全員が、上記（1）及び（2）の競争参加資格要件を満たす必要があります。

共同企業体を結成する場合は、共同企業体結成届（16. 様式集参照）を作成し、各社毎の競争参加資格確認申請書と共に提出してください。結成届には、原則として、構成員の全ての社の代表者印または社印を押印してください。

（4）再委託

再委託は原則禁止となります。ただし、業務仕様書に特別の定めがあるとき または発注者の承諾を得たときは、本件業務全体に大きな影響を及ぼさない補助的な業務に限り再委託は可能です。

（5）利益相反の排除

特定の排除者はありません。

7. 競争参加資格提出書類

（1）提出方法

- 1) 提出期限：2.（2）日程参照
- 2) メール件名：【提出】（調達管理番号）_（法人名）_競争参加資格確認申請書
- 3) 提出先：2.（1）記載の電子メール宛先
- 4) 提出書類：（2）の書類を提出してください。

(2) 提出書類

提出書類	様式
① 競争参加資格確認申請書	16. 様式参照
② 全省庁統一資格審査結果通知書（写） （資格は提出期限（参加申込期限）時点で有効であること）	
③ 資本関係又は人的関係に関する申告書 （該当なしの場合も提出は必須です。）	16. 様式参照
④ 共同企業体を結成するとき ・ 共同企業体結成届 ・ 共同企業体を構成する社（構成員）の資格確認書類（上記①、②、③） ※共同企業体代表者がまとめて提出してください。	16. 様式参照

(3) 留意事項

上記提出書類が未提出または不備があっても、弊機構から提出書類の依頼や書類不備の連絡はおこないませんので、提出書類は十分確認してください。

8. 競争参加資格確認の通知

確認の結果、資格有と判断される場合は結果を通知しません。資格無しと判断される場合のみ結果をご連絡します。

9. 入札書の提出

電子入札システムの「入札書」に所定の項目を入力の上、同システム上で提出してください。

(1) 提出方法

- 1) 入札書締切 : 2. (2) 日程参照
- 2) 提出先 : 電子入札システム

(2) 電子入札システム

- 1) JICA電子入札システムでの入札を行うためには、以下の準備及び期間が必要となります。

初めての方は入札書の提出日より前までにご準備ください。

<https://www.jica.go.jp/about/announce/notice/ebidding.html>

- ① 認証局発行のICカード及びカードリーダーの準備

認証局によりますが、**ICカードの発効には2～4週間かかります。**

詳細は上記ポータルサイトに掲載の操作マニュアル「操作マニュアル（設定～利用者登録）」をご参照ください。

https://www.jica.go.jp/Resource/announce/notice/ku57pq00002mbjis-att/registration_manual.pdf

- ② 団体情報の登録及び「業者番号」の入手

電子入札システムでの利用者登録に「業者番号」が必要です。業者番号発行にはJICAの団体情報登録が必要であり、登録がない場合はあらかじめ団体登録手続きが必要となります。

登録には、7～10営業日かかります。

<https://www.jica.go.jp/about/announce/notice/organization/index.html>

- ③ 電子入札システム操作手順は「操作マニュアル6 ページ」を参照ください。

https://www.iica.go.jp/about/announce/notice/_icsFiles/afieIdfile/2025/05/15/manual2025_0514.pdf

- 2) 電子入札システム上、本案件は「工事、コンサル」に分類されております。お間違えのないようご注意ください。
- 3) 総合点が同点の場合には、抽選となりますので、その際に必要となる「くじ入力番号」（3桁の半角数字）を必ず入力してください。
- 4) 入札金額は円単位で記入し、消費税及び地方消費税を抜いた**税抜き価格**としてください。

(3) その他

- 1) 一旦提出された入札書は、差し替え、変更または取り消しはできません。
- 2) 入札保証金は免除します。

10. 辞退届の提出

競争参加資格の確認を申請した者が競争参加を辞退するときは、遅くとも入札会1営業日前の正午までに辞退する旨を下記メールアドレスまで送付願います。

(1) 提出方法

- 1) メール件名 : 【辞退】(調達管理番号)_(法人名)_ 案件名
- 2) 提出先 : 2.(1) 記載の電子メール宛先

(2) 留意事項

- 1) 上記の手続きにより競争参加を辞退した者は、これを理由として以降の入札において不利益な取扱いを受けるものではありません。
- 2) 一度提出された辞退届は、取り消しを認めません。

11. 入札執行

(1) 入札方法等

1) 入札方法

当機構契約事務取扱細則第14条第2項「前項に定める競争入札の執行における開札は、立会いによるものに代えて、インターネット上に設置する電子入札システムにより行うことができるものとする」に基づき、電子入札システムで入札を実施します。

2) 入札会の手順

① 開札

日 時 : 2.(2) 日程参照

入札執行者は、開札時刻に電子入札システムにより開札し、入札結果を同システム上で入札者に開示します。再入札となる場合には再入札通知書を発行します。

② 再入札及び不落随意契約交渉

- a) 開札後、再入札が発生した際には入札者は電子入札システムにより再入札通知書に記載の入札書受付／締切日時、開札日時に従い、記載されている入札最低金額未満の金額で再入札書を提出します。
- b) 開札の結果、すべての入札金額が予定価格を超える場合には、ただちに2回目の再入札を行います。

- c) 2回まで行っても落札者がいないときは入札を打ち切り、不落随意契約の交渉に応じて頂く場合があります。

(2) 再入札

電子入札システムにて再入札の日時を指定し通知します。1回目の入札から再入札までの間隔は通常20分程度になりますので、再入札に備えてすぐに電子入札システム利用できるよう予めご準備ください。

なお、再入札の場合は、発注者から再入札実施日時を通知しますので、締切時間までに再入札書を電子入札システム上で提出願います。

(3) 入札途中での辞退

「不調」の結果に伴い、再入札を辞退する場合は、「辞退」ボタンを選択して必要事項を記入の上、電子入札システム上で提出して下さい。

(4) 入札者の失格

入札書受付締切日時までに入札書を提出しなかった場合（再入札時の場合も含む）には入札者を失格とします（入札者側のPCのトラブルによる場合も含む）。

(5) 入札書の無効

次の各号のいずれかに該当する入札は無効とします。

- 1) 明らかに連合によると認められる入札
- 2) 条件が付されている入札
- 3) その他入札に関する条件に違反した入札

12. 落札者の決定

(1) 落札者の決定

発注者の予定価格の範囲内で最低の価格で入札した者を電子入札システム上で落札者とします。

落札者は、入札金額の内訳書（社印不要）をメールで提出ください。なお、内訳に出精値引きを含めることは認めません。

(2) 抽選

落札となるべき同価の入札をした者が2人以上あるときは、抽選により落札者を決定します。その場合、入札書提出時にご入力いただいた任意の「くじ入力番号」をもとに、電子入札システムで自動的に抽選し落札者を決定します。

(3) 落札者と宣言された者の失格

入札会において上述の落札者の決定方法に基づき落札者と宣言された者について、入札会の後に、以下の条件に当てはまると判断された場合は、当該落札者を失格とし、改めて落札者を確定します。

- 1) その者が提出した入札書に不備が発見され、11. (5) 入札書の無効 に基づき「無効」と判断され合 った場合
- 2) 入札金額が著しく低い等、当該応札者と契約を締結することが公正な取引の秩序を乱すこととなるおそれがある著しく不適當であると認められる場合

13. 契約書の作成及び締結

- (1) 落札者は電子署名による契約を締結することを基本とし、「第4 契約書(案)」に基づき、速やかに契約書を作成し、電子署名により締結します。なお、書面による契約を希望する場合は落札後発注者へご照会ください。
- (2) 契約保証金は免除します。
- (3) 契約書附属書Ⅱ「**契約金額内訳書**」については、入札金額の内訳書等の文書に基づき、両者協議・確認して設定します。

14. 競争・契約情報の公表

本競争の結果及び競争に基づき締結される契約については、機構ウェブサイト上に契約関連情報(契約の相手方、契約金額等)を公表しています。また、一定の関係を有する法人との契約や関連公益法人等については、以下の通り追加情報を公表します。詳細はウェブサイト「公共調達適正化に係る契約情報の公表について」を参照願います。

(URL: <https://www.jica.go.jp/announce/manual/guideline/consultant/corporate.html>)

競争への参加及び契約の締結をもって、本件公表に同意されたものとみなさせていただきます。

- (1) 一定の関係を有する法人との契約に関する追加情報の公表
 - 1) 公表の対象となる契約相手方取引先

次のいずれにも該当する契約相手方を対象とします。

 - ① 当該契約の締結日において、当機構の役員経験者が再就職していること、又は当機構の課長相当職以上経験者が役員等として再就職していること
 - ② 当機構との間の取引高が、総売上又は事業収入の3分の1以上を占めていること
 - 2) 公表する情報
 - ① 対象となる再就職者の氏名、職名及び当機構における最終職名
 - ② 直近3か年の財務諸表における当機構との間の取引高
 - ③ 総売上高又は事業収入に占める当機構との間の取引高の割合
 - ④ 一者応札又は応募である場合はその旨
 - 3) 情報の提供方法

契約締結日から1ヶ月以内に、所定の様式にて必要な情報を提供頂きます。
- (2) 関連公益法人等にかかる情報の公表

契約の相手方が「独立行政法人会計基準」第14章に規定する関連公益法人等に該当する場合には同基準第14章の規定される情報が、機構の財務諸表の付属明細書に掲載され一般に公表されます

15. その他

- (1) 機構が配布・貸与した資料・提供した情報(口頭によるものを含む)は、本件業務の技術提案書 及び入札書を作成するためのみに使用することとし、複写または他の目的のために転用等使用しないでください。

- (2) 競争参加資格がないと認められた者は通知した日の翌日から起算して7営業日以内に、説明を求めることができますので、ご要望があれば2.(1)選定手続き窓口までご連絡ください。
- (3) 当機構では、参考見積取得等の調達手続きにかかる各種支援業務を、株式会社うるるへ委託しています。同者から企業の皆様へ、直接、本案件にかかる応募勧奨のご連絡を差し上げる場合がございますので、予めご承知おきます。

本業務委託について、詳細は以下をご確認ください。

https://www.jica.go.jp/about/announce/information/shotatsu/2025/_icsFiles/afieldfile/2025/09/18/20250918.pdf

- (4) 契約締結後には、「政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準群」(最新版)及びこれに準拠する機構内関連規程に基づき機構が定める「個人情報取扱い安全管理措置並びに情報セキュリティ対策」(別添1)を遵守するとともに、「個人情報保護及び情報セキュリティに関する情報」(別添2)にて、個人情報保護及び情報セキュリティにかかる管理体制等の報告を行ってください。

(※別添1及び別添2については契約書案を参照してください。)

政府統一基準群の改定に伴う情報セキュリティ対応の見直しおよび別添資料について、詳細は以下をご確認ください。

<https://www.jica.go.jp/about/announce/information/common/2024/20250210.html>

16. 様式

- (1) 入札手続に関する様式

- 1) 機密保持誓約書
- 2) 質問書
- 3) 競争参加資格確認申請書
- 4) 資金的関係又は人的関係に関する申告書
- 5) 共同企業体結成届(共同企業体の結成を希望する場合)
- 6) 委任状

以上の様式のデータは、国際協力機構ホームページ「調達情報」→「調達ガイドライン、様式」→「国内向け物品・役務の調達 様式」よりダウンロードできます。

(URL:https://www.jica.go.jp/about/announce/manual/form/domestic/op_tend_price.html)

- (2) 書類の押印省略

様式または本説明書において押印を必要としている提出書類は、代表者印等の押印を原則とします。ただし、機密保持誓約書、競争参加資格確認申請書について押印が困難な場合は、「本件責任者及び担当者」の氏名、役職、所属先及び連絡先(電話番号及び電子メールアドレス)を必ず明記し、提出時の電子メールは責任者本人又は責任者にccを入れて送付してください。

本件の問い合わせは、記録保持と正確な対応のため、原則として電子メールをお願いします。

メールアドレス: e_sanka@jica.go.jp 電話番号: 03-5226-6609

電子入札システムに関する技術的質問は回答できません。必ずヘルプデスクへお問い合わせください。

https://www.jica.go.jp/about/announce/notice/_icsFiles/afieldfile/2025/05/15/manual2025_0514.pdf

第2 業務仕様書（案）

この業務仕様書は、独立行政法人国際協力機構（以下「発注者」）が実施する「2026-2029 年度首都圏職員住宅入退去等管理業務」に関する業務の内容を示すものです。本件受注者は、この業務仕様書に基づき本件業務を実施します。

1. 業務の背景

発注者が職員向けに首都圏に所有または発注者にて長期に借り上げている保有住宅（所有：4 か所、長期借上：2 か所）において、職員の異動による入退去の対応が発生する。また各室の整備において、空室や退去時における室内の状況や備品の点検を必要としている。

2. 業務の目的

職員の入退去や空室管理にかかる業務を専門的知見・経験を有する業者に外注することで、業務の効率的実施と職員に提供するサービスの質向上を図る。

3. 履行期間

2026 年 10 月 1 日～2029 年 9 月 30 日

4. 業務の内容

(1) 首都圏職員住宅への入退去対応（駐車場利用対応含む）

転勤等により職員住宅への入居・退去を行う職員からの窓口となり、問い合わせへの回答や各種情報提供、居室の割り振り、入退去完了までの一連の事務を行う。契約開始時に業務計画書（様式任意）を作成し提出する。なお職員からの問合せに対しては、24 時間以内の回答を原則とする。

(2) 空室点検（月 1 回）

首都圏職員住宅において、現在空室となっている居室を月 1 回訪問し、以下の対応を行う。

- ① 各空室への風通し（1 時間程度）
- ② 簡易な清掃 ※水道・電気は使用せず、掃き掃除・拭き掃除を行う。清掃にかかる消耗品は機構負担とし、別途限度額を設け実費精算とする。
- ③ 水回り（台所、浴室、トイレ、洗濯機置場等）の水漏れ有無の確認（水道費用は機構負担）。
- ④ 設置している器具・家具・壁紙等一連の設備における修繕必要性の目視確認。
- ⑤ 前回の空室点検以降、退去した居室があれば、退去者から提出された「入退去時住居現況チェックリスト」を持参し、退去者からの申告内容と比較し、修繕が必要な箇所があれば写真と共に記録する。また、残置物の有無を確認する。
- ⑥ 上記①～⑤の報告は、「6. 成果物・業務提出物等、(1) 業務報告書」及び「7. 経費支払い方法（成果物との関係）」を参照。

(3) 空室の鍵管理

- ① 空室の鍵を施錠可能な保管場所で、施錠のうえ保管する。また、「鍵管理簿」を作成し、紛失のないよう厳重に管理する。「鍵管理簿」の様式は問わないが、以下を記載する。
 - ・居室ごとの鍵保管本数・種類
 - ・出し入れがあった場合、その日付、取り扱った担当者名、出し入れの内容（○に送付、●●から受領等）
- ② 退去者から鍵を受領し上記のとおり保管し、また入居者へ当該居室の鍵を送付する（詳しい業務フローは別添参照）。その他、機構の求めに応じ、鍵の送付・受領を行う。なお、鍵のやり取りは、追跡可能な宅配便等の送付形式を利用する。やり取りにかかる送付費用は、入退去者もしくは機構負担。

(4) 入退去状況報告（月1回）

- ① 各月の末日（土日休日の場合は、前営業日）に、入退去状況にかかる以下項目を報告する。
 - ・各職員住宅の利用状況（入居室・空室・入居者・入居率・駐車場の利用状況）
 - ・入居者情報（入居する居室、入居年月日、氏名、職員番号、生年月日、年齢）
- ② 報告様式は問わないが、上記の情報をエクセルにより一覧にして提示する。Eメールもしくは送付物の容量が大きい場合はEメール以外の電子媒体により送付する。送付の際はセキュリティ確保のためパスワードを付与する。

(5) 職員住宅・物件案内書の作成・更新

※契約時及び情報変更毎に更新、現行業者が作成した過去データを使用可能。

職員住宅毎に、入居を希望する職員の閲覧用に「物件案内書」を作成する。様式は問わないが、以下を記載する。

- ・物件名
- ・所在地住所
- ・最寄り駅、及び駅から住宅までの徒歩分数（目安）
- ・居室番号
- ・間取り
- ・専有面積
- ・月額住宅使用料
- ・主要な付帯設備（冷暖房、ガスコンロ、倉庫、エレベーター、宅配ボックス、駐車場、オートロック等）
- ・主要な寸法（窓枠、冷蔵庫置場、洗濯機置場、エアコン設置場所（ダクトの位置含む）等）

(6) その他

取り扱う情報に更新があれば、発注者からの指示に基づき更新し提出する（例：「物件案内書」における月額住宅使用料変更等）。

5. 業務実施上の留意事項

- (1) 入居者のうち、次年度に入構する新人職員の入居は3月末に集中する。件数は30件程度。入居希望の聴取、居室の割り振り、居室名の連絡までは機構にて一括して行い、以後の鍵送付や問合せ等に対応する（詳細は、別添2「業務フロー詳細」を参照）。
- (2) 問合せを行う職員は、地方・海外等首都圏から離れた場所に滞在しており、主なコミュニケーションはEメールを介して行う。メールを使用する場合、迅速な対応と個人情報の管理を目的として、受注者は専用のメールアドレスを設定する。やり取りする情報に齟齬がないよう、迅速（営業日中の24時間以内の回答を原則）、丁寧でわかりやすい対応が期待される。
- (3) 以下の業務は機構で対応する。
 - ・ 職員住宅のうち、長期借上げ住宅の契約管理、家賃支払い等、物件管理会社との一連の対応
 - ・ 建物共用部等の全体管理、修繕の要否（建物、居室）
- (4) その他、職員住宅の維持、管理等については以下のURLに掲載されている独立行政法人国際協力機構職員住宅規程を参照。
<https://www.jica.go.jp/joureikun/act/110000066.html>
- (5) 個人情報の管理にあたり、以下のURLに掲載されている個人情報保護関連法令・規程等を理解すること。
<https://www.jica.go.jp/disc/personal/laws/index.html>

6. 成果物・業務提出物等

種類	提出期日・提出方法
(1) 入退去状況報告	・ 月末までに、当該月分を提出（土日休日の場合は前営業日）。 ・ 各職員住宅の利用状況、入居者情報をエクセルファイルにしてEメールで提出。
(2) 業務実施報告書	・ 毎月10日までに前月分を提出（土日休日の場合は前営業日）。契約終了月については、別途は発注者と確認する。 ・ 様式不問。A4サイズ10枚程度（入退去状況、空室点検結果、特記事項を記載し、原本を電子データにて提出）。
(3) 契約終了時のデータ提供	・ 各職員住宅の利用状況、入居者情報、退去者情報 ・ 契約期間中の入退去履歴（居室毎） ・ 空室の鍵及び管理簿の引継ぎ ・ その他、業務引継ぎに必要な情報

7. 経費の確定及び支払方法（成果物との関係）

（1）本業務の対価（報酬）

発注者は、受注者が提出する業務実施報告書に基づき検査を行い、当該月の業務の完了を確認したうえで、契約金額内訳書に定める金額の範囲内において、同内訳書に定められた単価に基づき、金額を確定する。

毎翌月 10 日（土日休日の場合は、前営業日）までに、業務実施報告書及び請求書を提出する。業務実施報告書の様式は問わないが、以下を記載する。

- ① 職員住宅毎の空室点検結果（上記「3. 空室点検」に記載した点検項目への対応結果を簡潔に。点検した居室の状態を写真にて提示。）
- ② 退去後の居室を確認のうえ、修繕が必要な場合、及び残置物がある場合は、修繕と残置物撤去の提案を併せて行うこと。
- ③ 「入退去状況」は月末に報告済であることを簡潔に記載。
- ④ その他特記事項（退去後の居室の状態や、業務効率化、職員に提供するサービスの質向上に向け提言や改善事項等）

発注者は提出された書類の内容を検査後、請求金額を支払う。

別添

- 1 業務スケジュール
- 2 業務フロー詳細
- 3 現行様式例（入居）
 - 3-1 「入居条件確認リスト」
 - 3-2 「入居に関する調書」
 - 3-3 「入居届兼誓約書」
 - 3-4 「入退去時住居現況チェックリスト」
 - 3-5 「駐車場使用開始届」
 - 3-6 「入居に関するご案内」（例）
- 4 現行様式例（退去）
 - 4-1 「退去に関する調書」
 - 4-2 「退去届」
 - 4-3 「駐車場使用終了届」
 - 4-4 「入退去時住居現況チェックリスト」
- 5 現行様式例（鍵受領証）
- 6 首都圏職員住宅一覧（単身用、世帯用）

※住所、間取り、建築年月等住宅情報を記載。
- 7 物件案内書（現行使用しているもの）

（＊6 及び 7 については、機密保持誓約書の提出を受け、別途配布）

以 上

業務内容	2026年度						2027年度												2028年度												2029年度					
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
0. 業務計画書作成・提出	◆ (業務開始から10日以内)																																			
1. 入退去対応(随時)	◀.....																																			▶
2. 退去時点検(随時)	◀.....																																			▶
3. 空室点検	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
4. 空室の鍵管理	←																																			→
5. 入退去状況報告	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
6. 職員住宅・物件案内書の作成・更新(随時)	◀.....																																			▶
7. 業務実施報告／請求書提出	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆

【業務フロー詳細】

1. 入居対応（職員とのやり取りはEメールが基本。CCに人事部担当者を入れる。）

【職員住宅への入居条件】

- ・ 転居に伴う転勤が命ぜられた職員（人事異動の内示を受けている者 ※内示は通常1～2か月前）。
- ・ 年齢制限：単身 35才未満、世帯 50才未満
- ・ 世帯の場合、入居当初から家族と同居。婚姻予定のものは入居から3ヶ月以内に結婚すること。

※上記以外に、職員住宅入居率が8割を下回る場合等において入居を認める場合がある。この場合は、人事部給与厚生課から委託先へ事前連絡を行う。

※各様式が職員から提出されたら、内容を確認し、記入漏れやミスがあれば修正・再提出をさせ、情報に漏れや齟齬がないようにする。

(1) 入居問合せ～必要書類送付：入居の1～2か月前

入居を希望する職員	委託先
① 入居希望連絡。空室状況問合せ	
	② 空室状況連絡。様式「入居条件確認リスト」「職員住宅入居に関する調書」送付。
③ 様式「入居条件確認リスト」「職員住宅入居に関する調書」記入・返送。	
	④ 入居条件確認。条件を満たしている場合は、「職員住宅入居に関する調書」に記載された居室希望を確認し、居室を割り当て、入居決定連絡。駐車場利用希望があれば、駐車場を割り当て、併せて連絡。
	⑤ 「入居に関するご案内」「入居届兼誓約書」、「入居時住居現況チェックリスト」送付。
⑥ 入居準備開始	

(2) 鍵の送付：入居の1週間前

入居を希望する職員	委託先
	① 居室等の鍵一式・様式「鍵受領証」を職員が指定する宛先へ宅配便(着払い)で送付

(3) 入居後

入居を希望する職員	委託先
① 入居後「鍵受領証」「入居届兼誓約書」、「入居時住居現況チェックリスト」記入・返送。	② 「鍵受領証」「入居届兼誓約書」「入居時住居現況チェックリスト」受領。内容確認。受領連

(4) 駐車場の利用申請：利用の1か月前を目安

利用を希望する職員	委託先
① 駐車場利用希望連絡 ※入居時に、様式「入居に関する調書」に記入の上、連絡してくる場合が大半。この場合入居時対応に含めて対応する。	② 様式「駐車場利用開始届」送付。
③ 「駐車場利用開始届」返送。	④ 内容確認。駐車場の割り当て、職員への連絡。

(5) 新人職員入居対応：2月初旬～3月下旬まで

機構(人事部給与厚生課) / 入居を希望する新人職員	委託先
① 2月初旬： 機構から委託先へ、入居者情報連絡（入居希望取りまとめから、居室割り当てまでは機構が行う）。入居予定者氏名、メールアドレス、鍵送付先、鍵送付希望日、入居予定日を一覧にして提供する。	② 機構へ、受領連絡。
	③ 新人職員へ、鍵送付先・鍵送付希望日を最終確認すると共に、様式「入居に関するご案内」「入居届兼誓約書」、「入居時住居現況チェックリスト」を送付。
	④ 3月中旬： 新人職員へ、居室等の鍵一式・様式「鍵受領証」を指定する宛先へ宅配便(着払い)で送付。
⑤ 3月下旬： 新人職員から委託先へ、入居後「鍵受領証」「入居届兼誓約書」、「入居時住居現況チェック	⑥ 「鍵受領証」「入居届兼誓約書」「入居時住居現況チェックリスト」受領。内容確認。新人職員へ受領連絡。

2. 退去対応（職員とのやり取りはEメールが基本。CCに人事部担当者を入れる。）

【参考情報】

- ・職員住宅の入居可能期間は「4年」（新人職員は7年）
- ・入居者の個別の事情により退去期限を最大6か月まで延長可能。延長の判断は機構が行う。
- ・職員は、自費でハウスクリーニングを手配し、退去後にハウスクリーニングを実施し、結果を退去届に記入し、提出する。

※各様式が職員から提出されたら、内容を確認し、記入漏れやミスがあれば修正・再提出をさせ、情報に漏れや齟齬がないようにする。

(1) 退去の連絡：退去の1か月前を目安

退居を希望する職員	委託先
① 退去希望の連絡	② 様式「退去に関する調書」「退去届」「入退去時住居現況チェックリスト」送付。
③ 「退去に関する調書」返送。	④ 「退去に関する調書」受領。内容確認

(2) 退去時

退居を希望する職員	委託先
① 「退去届」「入退去時住居現況チェックリスト」を記入の上、委託先へ提出、鍵の返却。	② 「退去届」「入退去時住居現況チェックリスト」、鍵受領。内容確認。
	③ 鍵受領後概ね1週間以内に提出された「入退去時住居現況チェックリスト」の記載内容を確認し、チェックリスト対応欄に記入する。
	④ 月1回の業務報告書提出時にも、退去後の居室状況（修繕必要性の有無、残置物有無、その他特記事項（あれば））を報告する。修繕が必要な場合、及び残置物がある場合は、修繕と残置物撤去の提案を併せて行う。

(3) 駐車場の利用終了申請：終了の1か月前を目安

利用終了を希望する職員	委託先
① 駐車場利用終了連絡 ※退去時に、様式「退去届」に記入の上、連絡してくる場合が大半。この場合退去時対応に含めて対応する。	② 様式「駐車場利用終了届」送付。
③ 「駐車場利用終了届」返送。	④ 内容確認。受領連絡。

・職員から上記以外にかかる問合せがあった場合、人事部給与厚生課へメールを転送し、対応を仰ぐ。

以上

送付先: ●●● メールアドレス: ●●●@●●●●

首都圏職員住宅入居に際しての入居条件確認リスト

1 首都圏の職員住宅(保有/借上げ、単身用/世帯用)の入居資格等は以下のとおりです。

- (1)対象:転居を伴う転勤を命ぜられた職員
 (2)入居可能年齢:単身用 35歳未満、世帯用 50歳未満
 (3)入居期間:原則4年まで
 ※OJTが予定されている新人職員は7年まで
 ※4年を迎える前に上記(2)入居可能年齢に達した職員は退去の必要があります。
 (4)その他:入居を希望する職員が主たる生計維持者又は世帯主であること

2 上記1の入居資格に該当するかを確認するため、以下の質問に回答願います。

- (1)氏名(職員番号): ()
 (2)所属部署:異動前 ()
 異動後 ()
 (3)異動の内示があった日: 年 月 日
 (4)帰国予定日(在外から本邦への異動の場合) 年 月 日
 発令日(国内機関から首都圏への異動の場合) 年 月 日
 (5)現在の年齢: 歳 (生年月日 年 月 日)
 (6)入居希望内容:
 ☐ 単身用
 ☐ 世帯用 (同居家族: ☐ 配偶者 ☐ 子 ☐ 父母)
 (同居家族入居時期 ☐ 職員と同時 / 年 月 日)

3 (参考)入居に際してのよくある質問

Q1 内々示の段階ですが、現在の空室状況を教えてください。

A1 本日時点での空室情報を提供します。また、空室情報は、ジャイナビ上「人事ポータル」でも公開しています。

Q2 ペットと一緒に住めますか？

A2 ペットの入居はお断りしています。

Q3 異動に伴い結婚予定ですが、婚約者と一緒に住めますか？

A3 入居から3ヶ月以内に入籍の予定があれば、入居を認めています。入籍後にJICA担当者に報告をお願いします。

Q4 入居前に内覧はできますか？

A4 内覧は認めておりません。

Q5 入居後に他の職員住宅に転居できますか？

A5 転居はできません。

Q6 居室の模様替えやリフォームはできますか？

A6 原則不可。退去時に完全に原状復帰できる範囲において認めております。事前にJICA担当者へご確認ください。

i 内々示の段階では入居申込不可。内示を受けてから改めてお問合せください。

ii 職員と入居時期が3カ月以上異なる場合は、世帯用職員住宅への入居は認められません。

送付先:●●● メールアドレス:●●●●@●●●●

年 月 日

職員住宅入居に関する調書

独立行政法人国際協力機構

人事部給与厚生課

所属部署	
氏名	
職員番号	

以下の住宅に入居を希望しますので、連絡します。

1.

住宅名	
居室番号	

2.

入居予定日	
-------	--

* 住宅使用料は入居後提出いただく「入居届」に記載の入居日から控除を開始します。

3. 鍵の受領方法 (どちらかを選択してください)

- ☐ 国内の実家等(信頼のできる友人も可 国内勤務の場合は勤務先宛も可)に送付する
※入居予定日の一週間前頃、宅急便(着払い)で発送

受取人氏名	
送付先住所	
電話番号	

- ☐ 帰国後、指定の送り先に送付する

受領予定日	
指定先住所	

4. 駐車場の使用予定の有無 (いずれかを選択してください)

☐ 有 (使用予定日: 年 月 日) ☐ 無 ☐ 検討中

有の場合、駐車場使用届を●●社(委託業者)宛に提出願います。提出された駐車場使用開始届の使用開始日から住宅使用料(駐車料金)の控除を開始します。

駐車場がある住宅: 永福町住宅、相模大野住宅、西船橋住宅、調布住宅

※車庫証明の発給が必要な場合は、発給依頼書及び車庫証明に必要事項を記入し、人事部給与厚生課宛にご提出ください。

●入居にあたり、「職員住宅規程」、「職員住宅修繕」、「住宅基準使用料算定及び調整」に事前に目を通してください。

●入居後、入居届及び住居現況チェックリスト等を速やかにご提出願います。

送付先:●●● メールアドレス:●●●●@●●●●

年 月 日

職員住宅入居届兼誓約書

独立行政法人国際協力機構
人 事 部 長 殿

所属部署	
氏名	
職員番号	

下記のとおり職員住宅に入居しましたのでお届けいたします。職員住宅に入居するにあたりましては、国際協力機構職員住宅規程を遵守履行し善良な管理者の注意と責任をもってその施設を使用いたします。国際協力機構職員住宅規程及び指示に違背し、又は国際協力機構に損害を及ぼしたときは、国際協力機構がとるいかなる措置に対しても異議申し立てをいたしません。以上誓約いたします。

(1) 住 宅 名 :	
-------------	--

(2) 居室番号 :	
------------	--

(3) 入 居 日 :	
-------------	--

(4) 同 居 者

氏名	生年月日	性別	本人との続柄	職業

以上

送付先: ●●● メールアドレス: ●●●●@●●●●

入退居時住居現況 チェックリスト

Vol. 1

職員住宅名		入居日	年 月 日
		退去日	年 月 日

* 入居中にご自身で修理したものがある場合には、
退去時の「内容詳細」に具体的内容を記載ください。

区分	箇 所	入居時			退去時		
		損 耗	内容詳細	対応 A: 後日修繕申請提出 B: 入居者負担による修理 C: 現状のまま使用	損 耗	内容詳細	対応 (給与厚生課記入)
玄関・廊下	チャイム	有 ・ 無			有 ・ 無		
	ドア	有 ・ 無			有 ・ 無		
	玄関錠	有 ・ 無			有 ・ 無		
	下駄箱	有 ・ 無			有 ・ 無		
	床	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(東)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(西)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(南)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(北)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	天井	有 ・ 無			有 ・ 無		
	照明器具	有 ・ 無			有 ・ 無		
		有 ・ 無			有 ・ 無		
		有 ・ 無			有 ・ 無		
台所・台所食堂	流し台	有 ・ 無			有 ・ 無		
	吊戸棚	有 ・ 無			有 ・ 無		
	換気扇	有 ・ 無			有 ・ 無		
	床	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(東)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(西)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(南)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(北)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	天井	有 ・ 無			有 ・ 無		
	ドア	有 ・ 無			有 ・ 無		
	網戸	有 ・ 無			有 ・ 無		
	照明器具	有 ・ 無			有 ・ 無		
	流し台下の収納	有 ・ 無			有 ・ 無		
トイレ		有 ・ 無			有 ・ 無		
	ドア	有 ・ 無			有 ・ 無		
	ロータンク	有 ・ 無			有 ・ 無		
	便器	有 ・ 無			有 ・ 無		
	便座	有 ・ 無			有 ・ 無		
	ペーパーホルダー	有 ・ 無			有 ・ 無		
	タオル掛け	有 ・ 無			有 ・ 無		
	照明器具	有 ・ 無			有 ・ 無		
	換気扇	有 ・ 無			有 ・ 無		
	床	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(東)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(西)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(南)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(北)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	天井	有 ・ 無			有 ・ 無		
		有 ・ 無			有 ・ 無		
		有 ・ 無			有 ・ 無		

備考:

.....

.....

.....

入退去時住居現況 チェックリスト

Vol. 2

区分	箇 所	入居時			退居時		
		損 耗	内容詳細	対応 A:後日修繕申請提出 B:入居者負担による修理 C:現状のまま使用	損 耗	内容詳細	対応 (給与厚生課記入)
浴室	ドア	有 ・ 無			有 ・ 無		
	水栓	有 ・ 無			有 ・ 無		
	シャワー	有 ・ 無			有 ・ 無		
	浴槽	有 ・ 無			有 ・ 無		
	排水トラップ	有 ・ 無			有 ・ 無		
	バスユニット	有 ・ 無			有 ・ 無		
	浴槽蓋	有 ・ 無			有 ・ 無		
	照明器具	有 ・ 無			有 ・ 無		
	換気扇	有 ・ 無			有 ・ 無		
		有 ・ 無			有 ・ 無		
		有 ・ 無			有 ・ 無		
洗面所	洗面化粧台	有 ・ 無			有 ・ 無		
	タオル掛け	有 ・ 無			有 ・ 無		
	防水パン	有 ・ 無			有 ・ 無		
	排水トラップ	有 ・ 無			有 ・ 無		
	床	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(東)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(西)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(南)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(北)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	天井	有 ・ 無			有 ・ 無		
	ドア・引戸	有 ・ 無			有 ・ 無		
	照明器具	有 ・ 無			有 ・ 無		
	換気扇	有 ・ 無			有 ・ 無		
		有 ・ 無			有 ・ 無		
		有 ・ 無			有 ・ 無		
洋 室	ドア・戸襖	有 ・ 無			有 ・ 無		
	床	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(東)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(西)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(南)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(北)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	天井	有 ・ 無			有 ・ 無		
	網戸	有 ・ 無			有 ・ 無		
	クローゼット	有 ・ 無			有 ・ 無		
	天袋	有 ・ 無			有 ・ 無		
		有 ・ 無			有 ・ 無		
洋 室	畳	有 ・ 無			有 ・ 無		
	襖	有 ・ 無			有 ・ 無		
	天袋	有 ・ 無			有 ・ 無		
	付鴨居	有 ・ 無			有 ・ 無		
	押入	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(東)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(西)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(南)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(北)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	網戸	有 ・ 無			有 ・ 無		
		有 ・ 無			有 ・ 無		
		有 ・ 無			有 ・ 無		

備考:

入退居時住居現況 チェックリスト

Vol. 3

区分	箇所	入居時			退居時		
		損 耗	内容詳細	対応 A:後日修繕申請提出 B:入居者負担による修理 C:現状のまま使用	損 耗	内容詳細	対応 (給与厚生課記入)
洋室②・和室②	床	有・無			有・無		
	壁(東)	有・無			有・無		
	壁(西)	有・無			有・無		
	壁(南)	有・無			有・無		
	壁(北)	有・無			有・無		
	天井	有・無			有・無		
	畳	有・無			有・無		
	襖	有・無			有・無		
	天袋	有・無			有・無		
	ドア・戸襖	有・無			有・無		
	網戸	有・無			有・無		
	押入	有・無			有・無		
	クローゼット	有・無			有・無		
	付鴨居	有・無			有・無		
		有・無			有・無		
その他	クーラースリーブ	有・無			有・無		
	電話端子	有・無			有・無		
	テレビ端子	有・無			有・無		
	カーテンレール	有・無			有・無		
	物干金物	有・無			有・無		
	ベランダ	有・無			有・無		
	サッシ	有・無			有・無		
	硝子	有・無			有・無		
	障子	有・無			有・無		
	給湯器	有・無			有・無		
	エアコン	有・無			有・無		
		有・無			有・無		
		有・無			有・無		
		有・無			有・無		
		有・無			有・無		

備考:

清掃状況等確認(退居時のみ記入)

		特記事項
1.清掃一般	済・未	
2.カビの拭き取り	済・未	
3.油汚れ	済・未	
4.業者によるハウスクリーニング	済・未	業者名() 連絡先()
5.畳の表替え*	済・未	業者名() 連絡先()
6.障子及び襖紙の張替え*	済・未	業者名() 連絡先()
7.持込家具等の撤去	済・未	

* 入居期間が3年以上の場合は、畳の表替え、5年以上の経過の場合は、障子及び襖紙の張替えが必要です。(入居者負担)

* 退去時に各部屋、台所、洗面所、トイレ、風呂の状況を写真にとり(各1枚)、住居現況チェックリストに添付して提出ください。

退居者名	
書類記入日	年 月 日

送付先:●●● メールアドレス:●●●●@●●●●

仕様書別添3
様式3-5

年 月 日

駐車場使用開始届

独立行政法人国際協力機構
人 事 部 長 殿

所属部署	
氏名	
職員番号	

下記のとおり自動車の保管場所の使用を開始しますので、お届けいたします。

記

1. 開始日	年 月 日
2. 住宅名	
3. 居室番号	
4. 自動車の保管場所番号	
5. 受領鍵本数(受領した場合)	本
6. 受領鍵番号(同上)	No.

以上

調布住宅入居に関するご案内

2024 年 9 月版

住宅規程

ご入居にあたって、職員住宅に関する規程を必ずご確認ください。特に以下は重要です。

「独立行政法人国際協力機構職員住宅規程 規程（人）第 12 号」

「職員住宅修繕について 通知（PS）第 12-21001 号」

入居時

●入居時または入居中に駐車場使用開始される方は、「駐車場使用開始届」を日本管財株式会社へご提出ください。駐車場使用料の控除を開始します。

●万が一水漏れや火災をおこした場合の賠償責任リスクに対応するため、また家財の補償等のため個人で火災保険に加入されることをおすすめします。（JICA で加入している保険は建物全体と共有部のみであり、居室内家財等にかかる保険は個人でご加入いただいております。）

入居中

●内装、設備等に生じた故障や不具合にかかるお問合せ、修繕依頼は、以下の連絡先へお知らせください。

※詳細は、JICA Navigation 目的別→人事部ポータル→福利厚生→職員住宅をご参照ください。

連絡先：XXXXXX 株式会社・JICA 担当 E-mail アドレス XXXXX@XXXXX.XX.jp TEL XX-XXXX-XXXX

受付時間：平日 9：30～17：45

＜補足＞ ・土日・祝日及び年末年始（12 月 29 日から 1 月 3 日まで）を除く。

・緊急時（※）の場合は 24 時間 365 日受け付ける。（電話について、時間外は建物管理会社の緊急時受付センターに転送されます）

＜注意事項＞

- ・ 緊急時を除き、基本的な連絡はメールでお願いします。
- ・ メール の cc に人事部給与厚生課及び管理部 FM 課担当者を含めてください。
- ・ 受付時間外における緊急時（※）は、上記電話番号に連絡してください。

※緊急時とは→ 地震や風水害等の自然災害や火災、事故等の人為的災害といった入居者、近隣住民及び住宅（建築設備）等に対して重大な被害や影響を及ぼす可能性のある事態。（過去に各住宅で起きた例：水漏れ、ガス漏れ、設備機器の想定外の停止等）

（注）機構負担の修繕については、緊急時であっても、原則機構の事前承認が必要になります。

- ・ 居室において修繕が必要な場合は、住宅修繕申請書をご記入の上、上記 E-mail アドレス（cc：人事部及び管理部担当者）まで提出してください。※詳細は、JICA Navigation 目的別→人事部ポータル→福利厚生→職員住宅→職員住宅：入居/退去/修繕にてご確認ください。

※共用部の電球切れが起きた場合は後述の管理会社に電球交換を依頼してください。

●共用部の水道・電気・電球交換費用は翌年度の共益費に反映されます。

●緊急時の避難経路確保、防火扉開閉の観点から、廊下・階段等、物品放置が禁止されている場所に物を置かないようにご注意ください。

退去時

●住宅に設置されている物、次の入居者との合意がとれた物以外はご自身で処分して退去ください。
万が一残置物がある場合には、退去後であってもご自身で処分いただくか、処分費用を負担していただきます。

以上

＜本件に係る照会先＞

首都圏職員住宅入退居管理業務受託者

XXXXX 株式会社 XXXXX@XXXXX.XX.jp

送付先:●●● メールアドレス:●●●●@●●●●

年 月 日

職員住宅の退去に関する調書

独立行政法人国際協力機構

人事部給与厚生課

所属部署	
氏名	
職員番号	

以下のとおり退去予定のため、連絡します。

1.	住宅名	
	居室番号	

2.	退去予定日	年	月	日
----	-------	---	---	---

3. 異動の事由が生じた日から1ヶ月以上の明渡猶予希望の有無（いずれかを選択してください）

☐ 有 ☐ 無

（有を選択した方のみ）

(1) 明渡猶予希望期間	
(2) 理由	

注1: 本調書は、職員住宅への入居希望者に住宅を紹介する際の参考資料としています。

以下の点にご注意の上、記載ください。

(1) 退去予定日はおおよその予定が決まった段階で記載ください。（正確でなくて可）

(2) 記載内容に変更が生じる場合には給与厚生課までご連絡ください。

注2: JICA Navigation「職員住宅(首都圏)を入居/退去/修繕したい時」

の退去の手順をご覧になり、必要な手続きを開始してください。（各種届出、ハウスクリーニング等）。

注3: 異動の事由が生じた日から1ヶ月以上の明渡し猶予を希望する場合は、「明渡し猶予申請書」をご提出願います。「退職」による退去の場合、職員でなくなる日から起算して1月以内は職員住宅に居住できます。給与の天引きができなくなる退職後にご自身で住宅使用料の振込手続きを行う必要が生じないように、最終給与で精算をするために、早めに退去日を確定し、退職する前月の1日までに「退去届」をご提出ください。

注4: 班長がいる住宅については、班長に退去の連絡をお願いします。

年 月 日

職員住宅退去届

独立行政法人国際協力機構

人 事 部 長 殿

所属部署	
氏名	
職員番号	

1. 退去届

下記のとおり職員住宅を退去しましたのでお届けいたします。

(1)住宅名	
(2)居室番号	
(3)退去日	年 月 日
(4)入居日(入居年数)	年 月 日 (年 ヶ月)
(5)住宅チェックリスト	別添のとおり

2. 退去時ハウスクリーニング

職員住宅規程第18条第9号の規定に基づき、退去時のハウスクリーニングを行ったので報告します。

(1)実施日	平成 年 月 日
(2)実施内容	☐ 台所 ☐ 換気扇 ☐ トイレ ☐ 風呂(洗面台も含む) ☐ カーペット(あれば)

※退去時に各部屋、台所、洗面所、トイレ、風呂の状況を写真にとり(各1枚)、住居現況チェックリストに添付して提出してください。

※ハウスクリーニングが終了するまでは、電気・ガス・水道契約は継続してください。

3. 補修報告

「職員住宅修繕について(通知(PS)第12-21001号)」に基づき、以下の補修を行ったので報告します。

☐ 障子及び襖紙の張替え
☐ 畳の表替え

4. 駐車場使用終了届(駐車場利用者のみ)

使用終了日	年 月 日
自動車の保管場所番号	
鍵情報(受領した場合)	本数: 本 受領鍵番号: No.

以上

※ 住宅改造、滅失・損傷、汚損箇所がある場合には、別途様式によりご提出願います。

送付先:●●● メールアドレス:●●●●@●●●●

仕様書別添4
様式4-3

年 月 日

駐車場使用終了届

独立行政法人国際協力機構
人 事 部 長 殿

所属部署	
氏名	
職員番号	

下記のとおり自動車の保管場所の使用を終了しましたので、お届けいたします。

記

1. 終了日	年 月 日
2. 住宅名	
3. 居室番号	
4. 自動車の保管場所番号	
5. 受領鍵本数(受領した場合)	本
6. 受領鍵番号(同上)	No.

以上

送付先:●●● メールアドレス:●●●●@●●●●

入退居時住居現況 チェックリスト

Vol. 1

職員住宅名		入居日	
		退居日	年 月 日

* 入居中にご自身で修理したものがある場合には、
退去時の「内容詳細」に具体的内容を記載ください。

区分	箇 所	入居時			退居時		
		損 耗	内容詳細	対応 A:後日修繕申請提出 B:入居者負担による修理 C:現状のまま使用	損 耗	内容詳細	対応 (給与厚生課記入)
玄関・廊下	チャイム	有 ・ 無			有 ・ 無		
	ドア	有 ・ 無			有 ・ 無		
	玄関錠	有 ・ 無			有 ・ 無		
	下駄箱	有 ・ 無			有 ・ 無		
	床	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(東)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(西)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(南)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(北)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	天井	有 ・ 無			有 ・ 無		
	照明器具	有 ・ 無			有 ・ 無		
		有 ・ 無			有 ・ 無		
		有 ・ 無			有 ・ 無		
		有 ・ 無			有 ・ 無		
台所・台所食堂	流し台	有 ・ 無			有 ・ 無		
	吊戸棚	有 ・ 無			有 ・ 無		
	換気扇	有 ・ 無			有 ・ 無		
	床	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(東)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(西)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(南)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(北)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	天井	有 ・ 無			有 ・ 無		
	ドア	有 ・ 無			有 ・ 無		
	網戸	有 ・ 無			有 ・ 無		
	照明器具	有 ・ 無			有 ・ 無		
	流し台下の収納	有 ・ 無			有 ・ 無		
		有 ・ 無			有 ・ 無		
		有 ・ 無			有 ・ 無		
トイレ	ドア	有 ・ 無			有 ・ 無		
	ロータンク	有 ・ 無			有 ・ 無		
	便器	有 ・ 無			有 ・ 無		
	便座	有 ・ 無			有 ・ 無		
	ペーパーホルダー	有 ・ 無			有 ・ 無		
	タオル掛け	有 ・ 無			有 ・ 無		
	照明器具	有 ・ 無			有 ・ 無		
	換気扇	有 ・ 無			有 ・ 無		
	床	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(東)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(西)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(南)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(北)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	天井	有 ・ 無			有 ・ 無		
		有 ・ 無			有 ・ 無		
		有 ・ 無			有 ・ 無		

備考:

.....

.....

.....

.....

入退去時住居現況 チェックリスト

Vol. 2

区分	箇所	入居時			退居時		
		損 耗	内容詳細	対応 A:後日修繕申請提出 B:入居者負担による修理 C:現状のまま使用	損 耗	内容詳細	対応 (給与厚生課記入)
浴室	ドア	有 ・ 無			有 ・ 無		
	水栓	有 ・ 無			有 ・ 無		
	シャワー	有 ・ 無			有 ・ 無		
	浴槽	有 ・ 無			有 ・ 無		
	排水トラップ	有 ・ 無			有 ・ 無		
	バスユニット	有 ・ 無			有 ・ 無		
	浴槽蓋	有 ・ 無			有 ・ 無		
	照明器具	有 ・ 無			有 ・ 無		
	換気扇	有 ・ 無			有 ・ 無		
		有 ・ 無			有 ・ 無		
洗面所	洗面化粧台	有 ・ 無			有 ・ 無		
	タオル掛け	有 ・ 無			有 ・ 無		
	防水パン	有 ・ 無			有 ・ 無		
	排水トラップ	有 ・ 無			有 ・ 無		
	床	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(東)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(西)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(南)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(北)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	天井	有 ・ 無			有 ・ 無		
	ドア・引戸	有 ・ 無			有 ・ 無		
	照明器具	有 ・ 無			有 ・ 無		
	換気扇	有 ・ 無			有 ・ 無		
		有 ・ 無			有 ・ 無		
洋室	ドア・戸襖	有 ・ 無			有 ・ 無		
	床	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(東)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(西)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(南)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(北)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	天井	有 ・ 無			有 ・ 無		
	網戸	有 ・ 無			有 ・ 無		
	クローゼット	有 ・ 無			有 ・ 無		
	天袋	有 ・ 無			有 ・ 無		
		有 ・ 無			有 ・ 無		
		有 ・ 無			有 ・ 無		
洋室	畳	有 ・ 無			有 ・ 無		
	襖	有 ・ 無			有 ・ 無		
	天袋	有 ・ 無			有 ・ 無		
	付鴨居	有 ・ 無			有 ・ 無		
	押入	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(東)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(西)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(南)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	壁(北)	有 ・ 無			有 ・ 無		
	網戸	有 ・ 無			有 ・ 無		
		有 ・ 無			有 ・ 無		
		有 ・ 無			有 ・ 無		

備考:

.....

.....

.....

.....

入退居時住居現況 チェックリスト

Vol. 3

区分	箇所	入居時			退居時		
		損 耗	内容詳細	対応 A:後日修繕申請提出 B:入居者負担による修理 C:現状のまま使用	損 耗	内容詳細	対応 (給与厚生課記入)
洋室②・和室②	床	有・無			有・無		
	壁(東)	有・無			有・無		
	壁(西)	有・無			有・無		
	壁(南)	有・無			有・無		
	壁(北)	有・無			有・無		
	天井	有・無			有・無		
	畳	有・無			有・無		
	襖	有・無			有・無		
	天袋	有・無			有・無		
	ドア・戸襖	有・無			有・無		
	網戸	有・無			有・無		
	押入	有・無			有・無		
	クローゼット	有・無			有・無		
	付鴨居	有・無			有・無		
		有・無			有・無		
		有・無			有・無		
その他	クーラースリーブ	有・無			有・無		
	電話端子	有・無			有・無		
	テレビ端子	有・無			有・無		
	カーテンレール	有・無			有・無		
	物干金物	有・無			有・無		
	ベランダ	有・無			有・無		
	サッシ	有・無			有・無		
	硝子	有・無			有・無		
	障子	有・無			有・無		
	給湯器	有・無			有・無		
	エアコン	有・無			有・無		
		有・無			有・無		
		有・無			有・無		
		有・無			有・無		

備考:

.....

.....

.....

清掃状況等確認(退居時のみ記入)

		特記事項
1.清掃一般	済・未	
2.カビの拭き取り	済・未	
3.油汚れ	済・未	
4.業者によるハウスクリーニング	済・未	業者名() 連絡先()
5.畳の表替え*	済・未	業者名() 連絡先()
6.障子及び襖紙の張替え*	済・未	業者名() 連絡先()
7.持込家具等の撤去	済・未	

* 入居期間が3年以上の場合は、畳の表替え、5年以上の経過の場合は、障子及び襖紙の張替えが必要です。(入居者負担)

* 退居時に各部屋、台所、洗面所、トイレ、風呂の状況を写真にとり(各1枚)、住居現況チェックリストに添付して提出ください。

退居者名	
------	--

書類記入日	年 月 日
-------	-------

職員住宅鍵受領証

国際協力機構
人事部長 殿

所属：
氏名：
職員番号（ ）

職員住宅入居にあたり、以下の条件に同意の上、下記の明細に記載された鍵を受領いたしました。

1. 受領した鍵は、退去時に一括して返却します。
2. 鍵を紛失した場合には直ちに給与厚生課に連絡するとともに、シリンダー交換に係る費用を負担します。
3. 鍵あるいは錠を破損した場合は、原状復帰に必要な経費を負担します。
なお、破損状況により、受領した鍵と同一であることが判別できない場合は、紛失扱いとします。
4. 鍵の複製は行いません。複製の事実が判明した場合は、シリンダー交換にかかる費用を負担します。

記

職員住宅名：●●●住宅×××号

鍵内訳：

鍵番号	場所（例：玄関）	本数	返却時チェック欄	
			日付	確認サイン
GOAL XXXXX	玄関（上） エントランス 倉庫/宅配 BOX	4		
BOXXXXXX	玄関（下）	4		
以下余白				

ポスト暗証番号： 左へ X 回 右へ X（宅配 BOX の暗証番号 XXXX）

以 上

第3 経費に係る留意点

1. 経費の積算に係る留意点

経費の積算に当たっては、業務仕様書（案）に規定されている業務の内容を十分理解したうえで、必要な経費を積算してください。積算を行う上での留意点は以下のとおりです。

（1）経費の費目構成

当該業務の実施における経費の費目構成です。

- ・業務の対価（報酬）

：入退去等管理報酬（入退去対応、空室情報の更新・送付、空室の鍵管理、空室定期点検等）

※同報酬は年間を通じて恒常的に発生する業務のため、1 年間にかかる経費を月毎に等分した上で、請求・支払いも月毎に行うこととします。

- ・一般管理費は上述の入退去等管理報酬に含む。

（2）消費税課税

課税事業者、免税事業者を問わず、入札書には契約希望金額の110分の100に相当する金額を記載願います。価格の競争は、この消費税を除いた金額で行います。なお、入札金額の全体に100分の10に相当する額を加算した額が最終的な契約金額となります。

2. 請求金額の確定の方法

経費の確定及び支払いについては、業務仕様書（案）の7. 経費の確定及び支払方法（成果物との関係）を参照してください。

別紙 経費積算用様式

経費積算用様式

単位:円

2026年度	
2027年度	
2028年度	
2029年度	
合計	

【2026年度】2026年10月～2027年3月＜6か月間＞

単位:円

業務内容		頻度	積算式	小計	合計
入退去等管理報酬	① 入退去対応	入退去時			
	② 空室情報の更新、送付	入退去時			
	③ 鍵管理	入退去時等			
	④ 物件案内書の更新	各種情報変更毎・随時			
	⑤ 空室定期点検	月1回			
	⑥ 入退去状況報告作成	月1回			
	⑦ 業務実施報告作成	月1回			
小計					0
消費税(10%)					0
合計 a					0

【2027年度】2027年4月～2028年3月＜12か月間＞

単位:円

業務内容		頻度	積算式	小計	合計
入退去等管理報酬	① 入退去対応	入退去時			
	② 空室情報の更新、送付	入退去時			
	③ 鍵管理	入退去時等			
	④ 物件案内書の更新	各種情報変更毎・随時			
	⑤ 空室定期点検	月1回			
	⑥ 入退去状況報告	月1回			
	⑦ 業務実施報告作成等事務手数料	月1回			
小計					0
消費税(10%)					0
合計 b					0

【2028年度】2028年4月～2029年3月＜12か月間＞

単位:円

業務内容		頻度	積算式	小計	合計
入退去等管理報酬	① 入退去対応	入退去時			
	② 空室情報の更新、送付	入退去時			
	③ 鍵管理	入退去時等			
	④ 物件案内書の更新	各種情報変更毎・随時			
	⑤ 空室定期点検	月1回			
	⑥ 入退去状況報告	月1回			
	⑦ 業務実施報告作成等事務手数料	月1回			
小計					0
消費税(10%)					0
合計 c					0

業務内容		頻度	積算式	小計	合計
入退去等管理報酬	① 入退去対応	入退去時			
	② 空室情報の更新、送付	入退去時			
	③ 鍵管理	入退去時等			
	④ 物件案内書の更新	各種情報変更毎・随時			
	⑤ 空室定期点検	月1回			
	⑥ 入退去状況報告	月1回			
	⑦ 業務実施報告作成等事務手数料	月1回			
小計					0
消費税(10%)					0
合計 d					0

総計:a + b + c+ d

0

第4 契約書（案）

業務委託契約書

1. 業務名称 2026-2029年度首都圏職員住宅入退去等管理業務
2. 契約金額 金00,000,000円
(内 消費税及び地方消費税の合計額 0,000,000円)
3. 履行期間 2026年10月1日から
2029年9月30日まで

頭書業務の実施について、独立行政法人国際協力機構（以下「発注者」という。）と受注者名〔組織名〕を記載（以下「受注者」という。）とは、おのおの対等な立場における合意に基づいて、次の条項によって契約（以下「本契約」という。）を締結し、信義に従って誠実にこれを履行するものとする。

（総則）

- 第1条 受注者は、本契約に定めるところに従い、附属書Ⅰ「業務仕様書」（以下「業務仕様書」という。）に規定する業務（以下「本業務」という。）を、業務仕様書の定めに従って善良な管理者の注意義務をもって誠実に実施し、発注者は受注者に対し頭書の「契約金額」の範囲内でその対価を支払うものとする。
- 2 受注者は、本契約及び業務仕様書に特別の定めがある場合を除き、本業務を実施するために必要な方法、手段、手順については、受注者の責任において定めるものとする。
- 3 頭書の「契約金額」には本業務の実施に必要な諸経費並びに消費税及び地方消費税（消費税法（昭和63年法律第108号）及び地方税法（昭和25年法律第226号）の規定に基づくもの。以下「消費税等」という。）を含むものとする。
- 4 税法の改正により消費税等の税率が変更された場合は、変更後の税率の適用日以降における消費税等の額は変更後の税率により計算された額とする。ただし、法令に定める経過措置に該当する場合又は消費税率変更前に課税資産の譲渡等が行われる場合は、消費税等の額は変更前の税率により計算された額とする。
- 5 本契約の履行及び本業務の実施（安全対策を含む。）に関し、受注者から発注者に提出する書類は、発注者の指定するものを除き、第5条に規定する監督職員を経由して提出するものとする。
- 6 前項の書類は、第5条に規定する監督職員に提出された日に発注者に提出されたものとみなす。
- 7 発注者は、本業務の委託に関し、受注者から契約保証金を徴求しない。
- 8 受注者が共同企業体である場合は、その構成員は、発注者に対して、連帯して本契約を履行し、本業務を実施する義務を負うものとする。また、本契約に基づく賠償金、違約金及び延滞金が発生する場合は、全構成員による連帯債務とする。
- 9 本契約を構成する文書中に規定される「文書」、「書面」及び「書類」について

は、予め発注者が指定した場合には紙媒体によるものとし、指定がない場合には電磁的方法によるものとする。

（業務計画書）

第2条 受注者は、本契約締結日から起算して10営業日（営業日とは国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日及び12月29日から1月3日までを除く月曜日から金曜日までの日をいう。以下、同じ。）以内に、業務仕様書に基づいて業務計画書を作成し、発注者に提出しなければならない。ただし、業務仕様書に特別の定めがあるとき又はあらかじめ発注者の承諾を得たときは、この限りでない。

（権利義務の譲渡等の禁止）

第3条 受注者は、本契約の地位又は本契約により生ずる権利又は義務を第三者に譲渡し、継承させ、又は担保に供してはならない。ただし、あらかじめ書面による発注者の承諾を得たときは、この限りでない。

（再委託又は下請負の禁止）

第4条 受注者は、本業務の実施を第三者に委託し、又は請け負わせてはならない。ただし、業務仕様書に特別の定めがあるとき又は受注者が再委託若しくは下請負の内容、受託者若しくは下請負人の名称その他必要な事項を記載した書面を発注者に提出し、発注者からあらかじめ書面による承諾を得たときは、この限りでない。

2 受注者が、前項ただし書の規定により本業務の一部の実施を第三者に委託し、又は請け負わせる場合は、次の各号の条件が課されるものとする。

- （1）受注者は発注者に対し、本契約により生ずる一切の義務を免れるものではなく、また、受託者又は下請負人の役職員を受注者の役職員とみなし、当該役職員が本契約により生ずる受注者の義務に違反した場合は、受注者が責任を負うものとする。
- （2）発注者は、受注者に対して、書面によりその理由を通知することにより、当該第三者に対する再委託又は下請負の中止を請求することができる。
- （3）第18条第1項第8号イからチまでのいずれかに該当する者を受託者又は下請負人としてはならない。

（監督職員）

第5条 発注者は、本契約の適正な履行を確保するため、独立行政法人国際協力機構人事部給与厚生課長の職にある者を監督職員と定める。

2 前項に定める監督職員は、本契約の履行及び本業務の実施に関して、次に掲げる業務を行う権限を有する。

- （1）第1条第5項に定める書類の受理
- （2）本契約に基づく、受注者又は次条に定める受注者の業務責任者に対する指示、承諾及び協議
- （3）本契約に基づく、業務工程の監理及び立会

3 前項における、指示、承諾、協議及び立会とは、次の定義による。

- （1）指示 監督職員が受注者又は受注者の業務責任者に対し、監督職員の所掌権

- 限に係る方針、基準、計画等を示し、実施させることをいう。
- (2) 承諾 受注者又は受注者の業務責任者が監督職員に報告し、監督職員が所掌権限に基づき了解することをいう。
 - (3) 協議 監督職員と受注者又は受注者の業務責任者が対等の立場で合議し、結論を得ることをいう。
 - (4) 立会 監督職員又はその委任を受けた者が作業現場に出向き、業務仕様書に基づき業務が行われているかを確認することをいう。
- 4 第2項第2号の規定に基づく監督職員の指示、承諾及び協議は、原則としてこれを書面に記録するものとする。
- 5 発注者は、監督職員に対し本契約に基づく発注者の権限の一部であって、第2項で定める権限以外のものを委任したときは、当該委任した権限の内容を書面により受注者に通知しなければならない。
- 6 発注者は、監督職員を通じて、受注者に対し、いつでも本業務の実施状況の報告を求めることができる。

(業務責任者)

- 第6条 受注者は、本業務の実施に先立ち、業務責任者を定め、発注者に届出をしなければならない。発注者の同意を得て、業務責任者を交代させたときも同様とする。
- 2 受注者は、前項の規定により定めた業務責任者に、本業務の実施についての総括管理を行わせるとともに、発注者との連絡に当たらせなければならない。
- 3 業務責任者は、本契約に基づく受注者の行為に関し、受注者を代表する権限(ただし、契約金額の変更、作業項目の追加等本業務の内容の重大な変更、履行期間の変更、損害額の決定、本契約に係る支払請求及び金銭受領の権限並びに本契約の解除に係るものを除く。)を有するものとする。

(本業務の内容の変更)

- 第7条 発注者は、必要があると認めるときは、受注者に対して書面による通知により本業務の内容の変更を求めることができる。
- 2 発注者は、必要があると認めるときは、受注者に対して書面による通知により本業務の全部又は一部を一時中止させることができる。
- 3 第1項により本業務の内容を変更する場合において、履行期間若しくは契約金額を変更する必要があると認められるとき、又は受注者が直接かつ現実に損害を受けたときは、発注者及び受注者は、変更後の履行期間及び契約金額並びに賠償額について協議し、当該協議の結果を書面により定める。
- 4 第2項の場合において、受注者に増加費用が生じたとき、又は受注者が直接かつ現実に損害を受けたときは、発注者はその費用を負担し、又はその損害を賠償しなければならない。この場合において、発注者及び受注者は、負担額及び賠償額を協議し、当該協議の結果を書面により定める。

(一般的損害)

- 第8条 本業務の実施において生じた損害(本契約で別に定める場合を除く。)については、受注者が負担する。ただし、発注者の責に帰すべき事由により生じた損害については、発注者が負担する。

(第三者に及ぼした損害)

第9条 本業務の実施に関し、第三者に及ぼした損害について、当該第三者に対して賠償を行わなければならない場合は、受注者がその賠償額を負担する。

2 前項の規定にかかわらず、同項に規定する損害の発生が発注者の責に帰すべき事由による場合は、発注者がその賠償額を負担する。ただし、受注者が、発注者の責に帰すべき事由があることを知りながらこれを発注者に通知しなかったときは、この限りでない。

3 前二項の場合において、その他本業務の実施に関し、第三者との間に紛争が生じたときは、発注者、受注者協力してその処理解決に当たるものとする。

(検査)

第10条 受注者は、本業務を完了したときは、遅滞なく、発注者に対して業務完了届を提出しなければならない。この場合において、発注者が認める場合は、受注者は、第14条に規定する経費確定(精算)報告書に代えて、附属書Ⅱ「契約金額内訳書」(以下「契約金額内訳書」という。)に規定する単価等に基づき確定した経費の内訳及び合計を業務完了届に記載することができる。

2 業務仕様書において可分な業務として規定されるものがある場合において、当該可分な業務が完了したときは、受注者は、当該部分業務に係る業務完了届を提出することができる。発注者が受注者に対し、部分業務に係る業務完了届の提出を求めたときは、受注者は、遅滞なく業務完了届を提出しなければならない。

3 発注者は、前二項の業務完了届を受理したときは、その翌日から起算して10営業日以内に当該業務について検査を行い、その結果を受注者に通知しなければならない。

(債務不履行)

第11条 受注者の責に帰すべき事由により、受注者による本契約の履行が本契約の本旨に従った履行と認められない場合、又は、履行が不能になった場合は、発注者は受注者に対して、完全な履行を請求し、又は履行に代え若しくは履行とともに損害の賠償を請求することができる。この場合において、本契約の目的が達せられないときは、発注者は、本契約の全部又は一部を解除することができる。

(成果品等の取扱い)

第12条 受注者は、業務仕様書に成果品(以下「成果品」という。)が規定されている場合は、成果品を、業務仕様書に成果品が規定されていない場合は、業務実施報告書(以下「業務実施報告書」という。)を、第10条第1項及び第2項に規定する業務完了届に添付して提出することとし、同条第3項に規定する検査を受けるものとする。

2 前項の場合において、第10条第3項に定める検査の結果、成果品及び業務実施報告書について補正を命ぜられたときは、受注者は遅滞なく当該補正を行い、発注者に補正完了の届を提出して再検査を受けなければならない。この場合において、再検査の期日については、同条第3項の規定を準用する。

3 受注者は、業務仕様書に業務提出物(以下「業務提出物」という。)が規定されている場合は、業務提出物を業務仕様書の規定(内容、形態、部数、期限等)に

に基づき提出し、監督職員の確認を得なければならない。

- 4 受注者が提出した成果品、業務実施報告書及び業務提出物（以下総称して「成果品等」という。）の所有権は、それぞれ第 10 条第 3 項に定める検査合格又は前項に定める監督職員の確認の時に、受注者から発注者に移転する。
- 5 受注者が提出した成果品等の著作権（著作権法第 27 条、第 28 条所定の権利を含む。）は、業務仕様書にて別途定めるもの及び受注者又は第三者が従来から著作権を有する著作物を除き、それぞれ第 10 条第 3 項に定める検査合格又は前項に定める監督職員の確認の時に受注者から発注者に譲渡されたものとする。成果品等のうち、受注者が従来から著作権を有する著作物については、受注者は、これら著作物を発注者が利用するために必要な許諾を発注者に与えるものとし、第三者が従来から著作権を有する著作物については、受注者は、責任をもって第三者から発注者への利用許諾を得るものとする。また、受注者は発注者に対して成果品等について著作者人格権を行使しないものとし、第三者をして行使させないものとする。
- 6 前項の規定は、第 11 条、第 18 条第 1 項、第 19 条第 1 項又は第 20 条第 1 項の規定により本契約が解除された場合について、これを準用する。

（成果品等の契約不適合）

- 第 13 条 発注者は、成果品等に業務仕様書との不一致その他契約の内容に適合しないもの（以下「契約不適合」という。）を発見したときは、発注者がその契約不適合を知った日から 1 年以内にその旨を通知した場合に限り、受注者に対して相当の期間を定めてその契約不適合の修補を請求し、契約金額の減額を請求し又はこれらに代え若しくはこれらと併せて損害の賠償を請求することができる。
- 2 発注者は、成果品等に契約不適合があるときは、発注者がその契約不適合を知った日から 1 年以内に受注者にその旨を通知した場合に限り、本契約の全部又は一部を解除することができる。
 - 3 前二項において受注者が負うべき責任は、前条第 1 項及び第 2 項の検査の合格又は同条第 3 項の監督職員の確認をもって免れるものではない。

（経費の確定）

- 第 14 条 受注者は、履行期間末日の翌日から起算して 30 日以内に、発注者に対し、経費確定（精算）報告書（以下「経費報告書」という。）を提出しなければならない。ただし、発注者の事業年度末においては、発注者が別途受注者に通知する日時までに提出するものとする。
- 2 受注者は、第 10 条第 2 項に定める可分な業務にかかる業務完了届を提出する場合は、当該業務完了届の提出日の翌日から起算して 30 日以内に、発注者に対し、当該業務に係る経費報告書を提出しなければならない。ただし、発注者の事業年度末においては、発注者が別途受注者に通知する日時までに提出するものとする。
 - 3 受注者は、契約金額内訳書のうち精算を必要とする費目についての精算を行うに当たっては、経費報告書の提出と同時に必要な証拠書類一式を発注者に提出しなければならない。
 - 4 発注者は、第 1 項及び第 2 項の経費報告書及び前項の必要な証拠書類一式を検査のうえ、契約金額の範囲内で発注者が支払うべき額（以下「確定金額」という。）

として確定し、経費報告書を受理した日の翌日から起算して 30 日以内に、これを受注者に通知しなければならない。

5 前項の金額の確定は、次の各号の定めるところにより行うものとする。

(1) 本業務の対価（報酬）

発注者は、受注者が提出する業務実施報告書に基づき検査を行い、当該月の業務の完了を確認したうえで、契約金額内訳書に定める金額の範囲内において、同内訳書に定められた単価に基づき、金額を確定する。

(支払)

第 15 条 受注者は、第 10 条第 3 項による検査に合格し、前条第 4 項の規定による確定金額の決定通知を受けたときは、発注者に確定金額の支払を請求することができる。

2 発注者は、前項の規定による請求を受けたときは、請求を受けた日の翌日から起算して 30 日以内に支払を行わなければならない。

3 前項の規定にかかわらず、発注者は、受注者の支払請求を受理した後、その内容の全部又は一部に誤りがあると認めたときは、その理由を明示して当該請求書を受注者に返付することができる。この場合は、当該請求書を返付した日から是正された請求書を発注者が受理した日までの期間の日数は、前項に定める期間の日数に算入しないものとする。

(履行遅滞の場合における損害の賠償)

第 16 条 受注者の責に帰すべき事由により、履行期間内に本業務を完成することができない場合において、履行期間経過後相当の期間内に完成する見込みのあるときは、発注者は受注者に履行遅滞により発生した損害の賠償を請求するとともに、成果品等の引渡しを請求することができる。

2 前項の損害賠償の額は、契約金額から既に引渡しを受けた成果品等に係る部分に相当する金額を控除した額につき、遅延日数に応じ、履行期間が経過した時点における政府契約の支払遅延防止等に関する法律（昭和 24 年法律第 256 号）に規定する利率（以下「本利率」という。）で算出した額とする。

3 発注者の責に帰すべき事由により、発注者が本契約に基づき支払義務を負う金員の支払が遅れた場合は、受注者は、未受領の金員につき、遅延日数に応じ、本利率で算出した額の遅延利息の支払いを発注者に請求することができる。

(天災その他の不可抗力の扱い)

第 17 条 天災地変、戦争、国際紛争、内乱、暴動、テロ行為、ストライキ、業務対象国政府による決定等、社会通念に照らして発注者及び受注者いずれの責に帰すべからざるやむを得ない事由（以下「不可抗力」という。）により、発注者及び受注者いずれかによる履行が遅延又は妨げられる場合は、当事者は、その事実発生後遅滞なくその状況を書面により本契約の相手方に通知しなければならない。また、発注者及び受注者は、通知後速やかに書面にて不可抗力の発生の事実を確認し、その後の必要な措置について協議し定める。

2 不可抗力により生じた履行の遅延又は不履行は、本契約上の義務の不履行又は契約違反とはみなさない。

(発注者の解除権)

第 18 条 発注者は、受注者が次に掲げる各号のいずれかに該当するときは、催告を要せずして、本契約を解除することができる。

- (1) 受注者の責に帰すべき事由により、本契約の目的を達成する見込みがないと認められるとき。
- (2) 受注者が本契約に違反し、その違反により本契約の目的を達成することができないと認められるとき。
- (3) 受注者が第 20 条第 1 項に規定する事由によらないで本契約の解除を申し出たとき。
- (4) 第 22 条第 1 項各号のいずれかに該当する行為があったとき。
- (5) 受注者に不正な行為があったとき、又は発注者の名誉ないし信用を傷つける行為をしたとき。
- (6) 受注者に仮差押又は仮処分、差押、競売、破産、民事再生、会社更生又は特別清算等の手続開始の申立て、支払停止、取引停止又は租税滞納処分等の事実があったとき。
- (7) 受注者が「独立行政法人国際協力機構関係者の倫理等ガイドライン」に違反したとき。
- (8) 受注者が、次に掲げる各号のいずれかに該当するとき、又は次に掲げる各号のいずれかに該当する旨の新聞報道、テレビ報道その他報道(ただし、日刊新聞紙等、報道内容の正確性について一定の社会的評価が認められている報道に限る。)があったとき。
 - イ 役員等が、暴力団、暴力団員、暴力団関係企業、総会屋、社会運動等標榜ゴロ、特殊知能暴力集団等(各用語の定義は、独立行政法人国際協力機構反社会的勢力への対応に関する規程(平成 24 年規程(総)第 25 号)に規定するところにより、これらに準ずる者又はその構成員を含む。以下「反社会的勢力」という。)であると認められるとき。
 - ロ 役員等が暴力団員でなくなった日から 5 年を経過しない者であると認められるとき。
 - ハ 反社会的勢力が経営に実質的に関与していると認められるとき。
 - ニ 法人である受注者又はその役員等が自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、反社会的勢力を利用するなどしているとき。
 - ホ 法人である受注者又はその役員等が、反社会的勢力に対して、資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的若しくは積極的に反社会的勢力の維持、運営に協力し、若しくは関与しているとき。
 - ヘ 法人である受注者又はその役員が、反社会的勢力であることを知りながらこれを不当に利用するなどしているとき。
 - ト 法人である受注者又はその役員等が、反社会的勢力と社会的に非難されるべき関係を有しているとき。
 - チ 受注者が、東京都暴力団排除条例又はこれに相当する他の地方公共団体の条例に定める禁止行為を行ったとき。
 - リ 受注者が、再委託、下請負又は物品購入等にかかる契約に当たり、その相手方がイからチまでのいずれかに該当することを知りながら、当該者と契

約を締結したと認められるとき。

又 受注者が、イからエまでのいずれかに該当する者を再委託、下請負又は物品購入等にかかる契約の相手方としていた場合（前号に該当する場合を除く。）に、発注者が受注者に対して当該契約の解除を求めたにもかかわらず、受注者がこれに従わなかったとき。

- 2 前項の規定により本契約が解除された場合（前項第4号の場合を除く。）は、受注者は発注者に対し契約金額（本契約締結後、契約金額の変更があった場合には、変更後の契約金額とする。）の10分の1に相当する金額を違約金として、発注者の指定する期間内に発注者に納付しなければならない。この場合において、発注者の被った実損害額が当該違約金の額を超えるときは、発注者は、受注者に対して、別途、当該超過部分の賠償を請求することができる。

（発注者のその他の解除権）

第19条 発注者は、前条第1項に規定する場合のほか、その理由を問わず、少なくとも30日前に書面により受注者に予告通知のうえ、本契約を解除することができる。

- 2 第1項の規定により本契約を解除した場合において、受注者が受注者の責に帰することができない事由により損害を受けたときは、発注者はその損害を賠償するものとする。賠償額は、受注者が既に支出し他に転用できない費用及び契約業務を完成したとすれば収受しえたであろう利益の額を合算した金額とする。この場合における収受しえたであろう利益は、契約金額の内訳に「一般管理費」の額が定められているときは同金額を上限とする。

（受注者の解除権）

第20条 受注者は、発注者が本契約に違反し、その違反により本業務を完了することが不可能となったときは、本契約を解除することができる。

- 2 前項の規定により本契約を解除した場合は、前条第2項の規定を準用する。

（解除に伴う措置）

第21条 本契約が解除された場合においては、受注者は、解除時点における本業務の実施済部分の内容を発注者に報告するとともに、成果品等（仕掛中のものを含む。）があり発注者がその引渡しを求めたときは発注者による検査を受け、合格したものを発注者に引き渡さなければならない。

- 2 発注者は、前項の報告内容を勘案し、解除時点における受注者の本業務の実施済部分につき履行割合を算定し、契約金額に前記履行割合を乗じた額（ただし、既払金を控除する。）を受注者に支払うものとする。

（重大な不正行為に係る違約金）

第22条 受注者が次に掲げる各号のいずれかに該当するときは、その都度、発注者の解除権行使の有無にかかわらず、受注者は契約金額（本契約締結後、契約金額の変更があった場合には、変更後の契約金額とする。）の10分の2に相当する金額を違約金として発注者の指定する期間内に納付しなければならない。

- （1）次のいずれかの目的により、受注者の役職員又はその指図を受けた者が刑法（明治40年法律第45号）第198条（贈賄）又は不正競争防止法（平成5年法

律第 47 号) 第 18 条 (外国公務員等に対する不正の利益の供与等の禁止) に違反する行為を行い刑が確定したとき。また、受注者が同条に相当する外国の法令に違反する行為を行い、同国の司法機関による確定判決又は行政機関による最終処分がなされたときも同様とする。

イ 本業務の実施にかかる便宜を得る目的

ロ 本業務の実施の結果を受けて形成された事業の実施を内容とする契約の受注又は事業の許認可の取得等にかかる便宜を得る目的 (本契約の履行期間中に違反行為が行われ、又は本契約の対価として支払を受けた金銭を原資として違反行為が行われた場合に限る。)

- (2) 受注者又は受注者の意を受けた関係者が、本業務に関し、私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律 (昭和 22 年法律第 54 号) (以下、「独占禁止法」) 第 3 条、第 6 条又は第 8 条に違反する行為を行い、公正取引委員会から独占禁止法第 7 条又は同法第 8 条の 2 (同法第 8 条第 1 号若しくは第 2 号に該当する行為の場合に限る。) の規定による排除措置命令を受け、又は第 7 条の 2 第 1 項 (同法第 8 条の 3 において読み替えて準用する場合を含む。) の規定による課徴金の納付命令を受け、当該納付命令が確定したとき。
- (3) 公正取引委員会が、受注者又は受注者の意を受けた関係者に対し、本業務の実施に関して独占禁止法第 7 条の 4 第 7 項の規定による課徴金の納付を命じない旨の通知を行ったとき。
- (4) 受注者又はその意を受けた関係者 (受注者又は当該関係者が法人の場合は、その役員又は使用人) が、本業務の実施に関し、刑法第 96 条の 6 (公契約関係競売等妨害)、独占禁止法第 89 条第 1 項又は同法第 90 条 1 号及び 2 号に違反する行為を行い刑が確定したとき。
- (5) 第 1 号、第 2 号及び前号に掲げるいずれかの違反行為があったことを受注者 (受注者が共同企業体である場合は、当該共同企業体の構成員のいずれか) が認めたとき。ただし、発注者は、受注者が、当該違反行為について自主的な申告を行い、かつ発注者に協力して損害の発生又は拡大を阻止し、再発防止のため適切な措置を講じたときは、違約金を免除又は減額することができる。なお、受注者が共同企業体である場合は、その構成員の一が自主的な申告を行い、かつ発注者に協力して損害の発生又は拡大を阻止し、再発防止のため適切な措置を講じたときは、発注者は、当該構成員に対し、違約金を免除又は減額することができる。
- (6) 第 14 条に定める経費確定 (精算) 報告において受注者が故意又は重過失により虚偽の資料等を提出し、発注者に対して過大な請求を行ったことが認められたとき。
- 2 受注者が前項各号に複数該当するときは、発注者は、諸般の事情を考慮して、同項の規定により算定される違約金の総額を減額することができる。ただし、減額後の金額は契約金額の 10 分の 2 を下ることはない。
- 3 前二項の場合において、発注者の被った実損害額が当該違約金の額を超えるときは、発注者は、受注者に対して、別途、当該超過部分の賠償を請求することができるものとする。
- 4 前三項に規定する違約金及び賠償金は、第 18 条第 2 項に規定する違約金及び賠償金とは独立して適用されるものとする。
- 5 受注者が共同企業体である場合であって、当該共同企業体の構成員のいずれか

が次の各号のいずれかに該当するときは、第1条第8項の規定にかかわらず、発注者は、当該構成員に対して本条第1項から第3項までに規定する違約金及び賠償金を請求しないことができる。ただし、本項第2号に掲げる者のうち当該違反行為を知らずながら発注者への通報を怠った者については、この限りでない。

- (1) 第1項第1号又は第4号に該当する場合であって、その判決内容等において、違反行為への関与が認められない者
 - (2) 第1項第5号に該当する場合であって、違反行為があったと認めた構成員が、当該違反行為に関与していないと認めた者
- 6 前項の適用を受けた構成員（以下「免責構成員」という。）がいる場合は、当該共同企業体の免責構成員以外の構成員が当該違約金及び賠償金の全額を連帯して支払う義務を負うものとする。
- 7 前各項の規定は、本業務の実施が完了した後も引き続き効力を有する。

（賠償金等）

- 第23条 受注者が本契約に基づく賠償金又は違約金を発注者の指定する期間内に支払わないときは、発注者は、その支払わない額及びこれに対する発注者の指定する期間を経過した日から支払の日まで本利率で算出した利息の合計額と、発注者が本契約に従って支払うべき金額とを相殺し、なお不足があるときは受注者に支払を請求することができる。
- 2 前項の請求をする場合は、発注者は、受注者に対して、前項に基づき発注者が指定した期間を経過した日から遅延日数に応じ、本利率で算出した額の延滞金の支払を請求する。

（調査・措置）

- 第24条 受注者が、第18条第1項各号又は第22条第1項各号に該当する疑いがある場合は、発注者は、受注者に対して調査を指示し、その結果を文書で発注者に報告させることができ、受注者は正当な理由なくこれを拒否してはならないものとする。
- 2 発注者は、前項の報告を受けたときは、その内容を詳細に確認し、事実の有無を判断するものとする。この場合において、発注者が審査のために必要であると認めるときは、受注者からの説明を求め、必要に応じ受注者の事業所に赴き検査を行うことができるものとする。
- 3 発注者は、第18条第1項各号又は第22条第1項各号に該当する不正等の事実を確認した場合は、必要な措置を講じることができるものとする。
- 4 発注者は、前項の措置を講じた場合は、受注者名及び不正の内容等を公表することができるものとする。

（秘密の保持）

- 第25条 受注者（第4条に基づき受注者が選任する再委託先又は下請負人を含む。本条において以下同じ。）は、本業務を実施する上で、発注者その他本業務の関係者から、文書、口頭、電磁的記録媒体その他開示の方法及び媒体を問わず、また、本契約締結の前後を問わず、開示された一切の情報（以下「秘密情報」という。）を秘密として保持し、これを第三者に開示又は漏洩してはならない。ただし、次の各号に定める情報については、この限りでない。

- (1) 開示を受けた時に既に公知であったもの
 - (2) 開示を受けた時に既に受注者が所有していたもの
 - (3) 開示を受けた後に受注者の責に帰さない事由により公知となったもの
 - (4) 開示を受けた後に第三者から秘密保持義務を負うことなく適法に取得したものの
 - (5) 開示の前後を問わず、受注者が独自に開発したことを証明しうるもの
 - (6) 法令並びに政府機関及び裁判所等の公の機関の命令により開示が義務付けられたもの
 - (7) 第三者への開示につき、発注者又は秘密情報の権限ある保持者から開示について事前の承認があったもの
- 2 受注者は、秘密情報について、本業務の実施に必要な範囲を超えて使用、提供又は複製してはならない。また、いかなる場合も改ざんしてはならない。
 - 3 受注者は、本業務に従事する者（下請負人がある場合には下請負人を含む。以下「業務従事者等」という。）が、その在職中、退職後を問わず、秘密情報を保持することを確保するため、秘密取扱規程の作成、秘密保持誓約書の徴収その他必要な措置を講じなければならない。
 - 4 受注者は、秘密情報の漏えい、滅失又はき損その他の秘密情報の管理に係る違反行為等が発生したときは、直ちに被害の拡大防止及び復旧等のために必要な措置を講ずるとともに、速やかに発注者に報告し、発注者の指示に従わなければならない。
 - 5 発注者は、必要があると認めるときは、受注者の同意を得た上で、受注者の事務所等において秘密情報が適切に管理されているかを調査し、管理状況が不適切である場合は、改善を指示することができる。
 - 6 受注者は、本業務の実施の完了後、速やかに秘密情報の使用を中止し、秘密情報を含む書類、図面、写真、フィルム、テープ、ディスク等の媒体（受注者が作成した複製物を含む。）を発注者に返却し、又は、当該媒体に含まれる秘密情報を復元できないよう消去若しくは当該媒体を破壊した上で、破棄し、その旨を発注者に通知しなければならない。ただし、発注者から指示があるときはそれに従うものとする。
 - 7 前各項の規定は、本業務が完了した後も引き続き効力を有する。

（個人情報保護）

- 第 26 条 受注者は、本契約において、発注者の保有個人情報（「個人情報の保護に関する法律」（平成 15 年法律第 57 号。以下「個人情報保護法」という。）第 60 条第 1 項で定義される保有個人情報を指し、以下「保有個人情報」という。）を取り扱う場合は、次の各号に定める義務を負うものとする。
- (1) 当該取扱いに係る個人情報に関する秘密を保持し、利用目的以外に利用しないこと。
 - (2) 本契約締結後速やかに、次の各号に掲げる事項を記載した書面を発注者に提出し、本業務の開始に先立って発注者の確認を得ること。
 - イ 当該取扱いに係る個人情報の複製等の制限に関する事項
 - ロ 当該取扱いに係る個人情報の漏えい等の事案の発生時における対応に関する事項
 - ハ 契約終了時における当該取扱いに係る個人情報の消去及び媒体の返却に

関する事項

- ニ 本業務における責任者及び業務従事者等の管理体制及び実施体制に関する事項
- ホ 前号及び次号の遵守状況についての定期的報告に関する事項
- ヘ イからホまでに定めるもののほか、当該取扱いに係る個人情報の漏えい、滅失又は毀損の防止その他個人情報の適正な管理のために発注者が必要と判断した措置に関する事項

(3) 前号の書面に記載された事項を遵守すること。

- 2 発注者は、必要があると認めるときは、受注者における個人情報の管理体制、実施体制及び個人情報の管理の状況について、検査により確認する。この検査は、原則として、実地検査の方法で行う。
- 3 業務内容の一部を再委託する場合には、受注者は、再委託先に対し、第1項各号の義務を履行させる。この場合において、発注者は、再委託する業務に係る保有個人情報の秘匿性等に応じて、受注者を通じて、又は発注者自らが前項の検査を実施する。
- 4 前項の規定は、再委託先が委託先の子会社である場合又は再委託先が再々委託を行う場合も同様とする。
- 5 受注者は、保有個人情報の漏えい等による被害発生リスクを低減する観点から、利用目的、業務の内容、保有個人情報の秘匿性等を考慮し、必要に応じ、特定の個人を識別することができる記載の全部又は一部を削除し、又は別の記号等に置き換える等の措置を講ずる。
- 6 第1項第1号及び第2項ないし第4項の規定は、本業務が完了した後も引き続き効力を有する。

(情報セキュリティ)

第27条 受注者は、本契約において発注者が提供する情報（以下「情報」という。）を取り扱う場合は、次の各号に定める義務を負うものとする。

- (1) 当該情報提供の目的以外に情報を利用しない等、提供された情報を適正に取り扱うこと。
- (2) 本契約締結後速やかに、次に掲げる事項を記載した書面を発注者に提出し、本件業務の開始に先立って発注者の確認を得ること。当該書面に記載した事項に変更があった場合には、速やかに発注者に書面で報告し、発注者の確認を得ること。

イ 情報の適正な取扱いを目的とした情報セキュリティ対策の実施内容

ロ 情報セキュリティ対策を実施・管理するための管理体制

ハ 本業務に係る業務従事者及び作業場所

ニ 情報セキュリティインシデントが発生した場合の具体的な対処方法

ホ 情報セキュリティ対策に係る履行状況の発注者への報告方法及び頻度

ヘ 情報セキュリティ対策の履行が不十分である場合の対処方法

ト イからヘまでに定めるもののほか、情報の適切な取扱いのために必要と発注者が判断した事項

- (3) 情報の受領方法や委託業務終了時の情報の廃棄方法等を含む情報の取扱手順について発注者と合意すること。
- (4) 第2号の書面及び前号の取扱手順に基づき情報を取り扱うこと。

2 発注者は、受注者が取り扱う情報の格付等を勘案のうえ、必要があると認めるときは、受注者の事務所等における情報セキュリティ監査を実施する。この場合において、受注者による情報の取扱いが前項第 4 号に違反する場合には、発注者は、受注者に対し、改善を指示することができる。

3 業務内容の一部を再委託する場合は、受注者は、再委託先に対し、第 1 項各号に定める義務を履行させ、かつ第 2 項に定める情報セキュリティ監査の措置を実施する。この場合において、受注者は、発注者に対し、第 4 条に定められている事項に加え、再委託先の情報セキュリティ対策の実施状況を確認するために必要な情報を提供し、発注者の確認を得る。

（安全対策）

第 28 条 受注者は、業務従事者等の生命・身体等の安全優先を旨として、自らの責任と負担において、必要な安全対策を講じて、業務従事者等の安全確保に努めるものとする。

（業務災害補償等）

第 29 条 受注者は、自己の責任と判断において本業務を実施し、業務従事者等の業務上の負傷、疾病、障害又は死亡にかかる損失については、受注者の責任と負担において十分に付保するものとし、発注者はこれら一切の責任を免れるものとする。

（安全対策措置等）

第 30 条 業務仕様書において海外での業務が規定されている場合、受注者は、第 28 条及び前条の規定を踏まえ、少なくとも以下の安全対策を講じるものとする。

（1）業務従事者等について、以下の基準を満たす海外旅行保険を付保する。ただし、業務従事者等の派遣事務（航空券及び日当・宿泊料の支給）を発注者が実施する場合であって、発注者が海外旅行保険を付保するときは、この限りではない。

- ・ 死亡・後遺障害 3,000 万円（以上）
- ・ 治療・救援費用 5,000 万円（以上）

（2）業務従事者等が 3 ヶ月以上現地に滞在する場合は、併せて在留届を当該国・地域の在外公館に提出させる。

（3）渡航前及び渡航中において、業務従事者に対し「海外渡航管理システム」への渡航及び滞在先情報に関する入力及び更新を徹底する。

（4）現地への渡航に先立ち、発注者が発注者のウェブサイト（「JICA 安全対策研修について」）上で提供する安全対策研修の受講を業務従事者等に徹底する。

（5）現地への渡航に先立ち発注者が提供する JICA 安全対策措置（渡航措置及び行動規範）を業務従事者に周知し、同措置の遵守を徹底する。また、発注者より、同措置の改定の連絡があった場合は、速やかに業務従事者に周知し、改定後の同措置の遵守を徹底する。

（6）業務従事者等の労働安全が維持され、労働災害等（労働安全衛生法第 2 条第 1 号（昭和 47 年法律第 57 号）にいう労働災害及びそれと同等の労働災害をいう。）を避けることを確保すべく、あらゆる注意を以て本業務を実施する。再委託を行う場合は、再委託先において同等の措置が図られるよう、必要な措置を

講ずる。

- 2 前項の第2号の規定は、日本国籍を持たない業務従事者には適用しない。
- 3 第28条及び前条の規定にかかわらず、海外での業務について、受注者の要請があった場合又は緊急かつ特別の必要性があると認められる場合、発注者は、受注者と共同で又は受注者に代わって、業務従事者等に対し安全対策措置のための指示を行うことができるものとする。

（業務引継に関する留意事項）

- 第31条 本契約の履行期間の満了、全部若しくは一部の解除、又はその他理由の如何を問わず、本契約が終了した場合には、受注者は発注者の求めに従い、本業務を発注者が継続して実施できるように必要な措置を講じるか、又は第三者に移行する作業を支援しなければならない。

（契約の公表）

- 第32条 受注者は、本契約の名称、契約金額並びに受注者の名称及び住所等が一般に公表されることに同意するものとする。
- 2 受注者が法人であって、かつ次の各号のいずれにも該当する場合は、前項に定める情報に加え、次項に定める情報が一般に公表されることに同意するものとする。
 - （1）発注者において役員を経験した者が受注者に再就職していること、又は発注者において課長相当職以上の職を経験した者が受注者の役員等として再就職していること
 - （2）発注者との取引高が、総売上高又は事業収入の3分の1以上を占めていること
 - 3 受注者が前項の条件に該当する場合に公表される情報は、以下のとおりとする。
 - （1）前項第1号に規定する再就職者に係る情報（氏名、現在の役職、発注者における最終職名）
 - （2）受注者の直近3ヵ年の財務諸表における発注者との間の取引高
 - （3）受注者の総売上高又は事業収入に占める発注者との間の取引高の割合
 - 4 受注者が「独立行政法人会計基準」第14章に規定する関連公益法人等に該当する場合は、受注者は、同基準第14章の規定される情報が、発注者の財務諸表の附属明細書に掲載され一般に公表されることに同意するものとする。

（準拠法）

- 第33条 本契約は、日本国の法律に準拠し、同法に従って解釈されるものとする。

（契約外の事項）

- 第34条 本契約に定めのない事項又は本契約の条項について疑義が生じた場合は、必要に応じて発注者及び受注者が協議して、当該協議の結果を書面により定める。

（合意管轄）

- 第35条 本契約に関し、裁判上の紛争が生じた場合は、当該紛争の内容や形式如何を問わず（調停事件を含む。）、東京地方裁判所又は東京簡易裁判所を第一審の専属的管轄裁判所とする。

本契約の証として、本書2通を作成し、発注者、受注者記名押印のうえ、各自1通を保持する。

なお、本契約は、以下の日付より効力を生じるものとする。

【電子契約の場合】

本契約の証として、本書を電磁的に作成し、発注者、受注者それぞれ合意を証する電磁的措置を執ったうえ、双方保管するものとする。

なお、本契約は、以下の日付より効力を生じるものとする。

20●●年●●月●●日

発注者

東京都千代田区二番町5番地25

独立行政法人国際協力機構

契約担当役

理 事 三井 祐子

受注者

業務仕様書

附属書 I

契約の管理について

1. 打合簿の作成

- (1) 契約書第5条に定義する監督職員（以下、「監督職員」という。）の指示、承諾及び協議は、その内容を打合簿（発注者指定様式）に記録し、同第6条に定義する業務責任者（以下、「業務責任者」という。）と監督職員とがそれぞれ保管する。
- (2) 以下、2. (2)及び(3)に定める契約内容の変更について合意する場合は、監督職員に加えて、独立行政法人国際協力機構国際協力調達部契約推進第三課長の職にある者（以下、「契約推進第三課長」という。）が打合簿の承認を行う。
- (3) 打合簿は、監督職員及び業務責任者の承認を終えた時点で合意が成立したものとみなす。ただし、1. (2)で定める契約推進第三課長の承認を要する打合簿は、左記の二者に加え、契約推進第三課長の承認を終えた時点で合意が成立したものとみなす。

2. 契約内容の変更及び確認

本契約書で定める事項を変更及び確認する場合の手続きについて、次のとおり定める。

ただし、契約の変更は、契約事務取扱細則第25条第1項の各号の要件ⁱを満たす場合に限り実施できるものとする。

- (1) (1) 以下の変更を実施する場合、監督職員及び業務責任者の二者による打合簿（以下、これを「二者打合簿」という。）を以て変更内容とその必要性について合意する。
 - ・ 契約総額の増減を伴わない業務内容の軽微な変更
 - ・ 契約総額の増減を伴わない附属書Ⅱ 契約金額内訳書の変更（定額計上の対象とした直接経費内での費目間流用）
 - ・ 成果物及びその他業務提出物の提出日または提出方法の変更
 - ・ 業務スケジュールの変更、また契約締結時に未定だったスケジュールの確定
 - ・ 主要な業務従事者（技術評価の対象となった者）の変更
- (2) 以下の変更を実施する場合、監督職員、業務責任者及び契約推進第三課長の三者による打合簿（以下、これを「三者打合簿」という。）を以て変更内容とその必要性について合意する。
 - ・ 契約総額の増減を伴わない附属書Ⅱ 契約金額内訳書の変更（定額計上の対象外とした直接経費内での費目間流用、報酬から定額計上の対象外とした直接経費または定額計上の対象外とした直接経費から報酬への費目間流用、費目の追加・変更）
 - ・ 支払計画の変更
 - ・ 再委託先の決定・変更
- (3) 以下の変更を実施する場合、三者打合簿を以て変更内容とその必要性について合意する。

また、三者打合簿による合意後、発注者及び受注者の代表者間において、速やかに変更契約書を締結する。履行期間を延長する場合は、必ず現行契約の履行期間内に変更契約書を締結すること。

- ・ 業務内容の変更
- ・ 契約金額の変更
- ・ 契約総額の増減を伴わない附属書Ⅱ 契約金額内訳書の変更（上記2. (1)および(2)で定めるものを除く全ての費目間流用）
- ・ 履行期間の変更

なお、三者打合簿による合意を以て、受注者は、三者打合簿に記載の変更内容にかかる業務に着手できるものとする。

以上に記載のない事項にかかる変更、また個別事例にかかる対応については、監督職員、業務責任者及び契約推進第三課長で協議の上、必要な手続きを確認する。

以上

ⁱ 以下、契約事務取扱細則（抜粋）のとおり。

(契約の変更)

第25条 契約担当役は、以下の各号の要件を満たす限り、必要に応じ、契約の内容、契約金額及び履行期限等を変更（以下「契約変更」という。）することができる。

- (1) 契約の同一性が確保されること。
- (2) 当初の契約相手方の選定過程における公正性が損なわれないこと。

2 契約変更は、書面によりこれを行わなければならない。

契約金額内訳書

個人情報取扱い安全管理措置並びに情報セキュリティ対策

1 個人情報及び特定個人情報の取り扱いに際し講ずべき安全管理措置

本業務を実施するにあたって、次に示す安全管理措置を実施する¹。なお、個人情報及び特定個人情報は以下総称し「個人情報」と記載する。

大項目	No.	小項目
1. 個人情報の取扱いに係る規律の整備	1	個人情報の取得、利用、保存等を行う場合の基本的な取扱方法を整備する。
2. 物理的安全管理措置	2	個人情報を取り扱う区域を管理し、入退室管理を行う。
	3	個人情報を取り扱うサーバー等の機器を管理している場合は、侵入対策、災害等に備えた予備電源の確保・防水対策等を行う。
	4	記録機能を有する機器・媒体の接続制限を行うとともに、端末を限定する。
	5	個人情報を取り扱う機器及び電子媒体等の盗難等を防止するための措置を講じる。また、持ち出しは責任者の許可制とする。
	6	(電子媒体等を持ち運ぶ場合) 持ち運ぶ際に個人情報が漏えいしないための措置を講じる。 (例) ・個人データが記録された電子媒体又は個人データが記載された書類等を持ち運ぶ場合、パスワードの設定、封筒に封入し鞆に入れて搬送する等、紛失・盗難等を防ぐための安全な方策を講ずる。
	7	本業務の完了後、速やかに個人情報の利用を中止し、個人情報を含む媒体等を発注者に返却、又は、個人情報を復元できないよう消去若しくは適切に媒体等を破壊した上で廃棄する。
3. 技術的安全管理措置 *情報機器（PCやスマートフォン等）、及び情	8	個人データを取り扱うことのできる機器及び当該機器を取り扱う業務従事者（受託者が個人の場合はその本人（以下同様））を明確化し、個人データへの不要なアクセスを防止する。
	9	個人情報を取り扱う情報システムを使用する業務従事者が正当なアクセス権を有する者であることを、識別したうえで認証す

¹ 個人情報保護委員会より公開されている「個人情報の保護に関する法律についてのガイドライン（通則編）」10（別添）講ずべき安全管理措置の内容における「中小規模事業者における手法の例示」参照のこと。（https://www.ppc.go.jp/personalinfo/legal/guidelines_tsusoku/#a10）

報システムを使用して個人情報を取り扱う場合（インターネット等を通じて外部と送受信等をする場合を含む）に講じる措置		る（ユーザーID、パスワード、磁気・ICカード等）。また、管理者権限は最小限の人数に絞る。
	10	外部からの不正アクセス等を防止するための措置（セキュリティ対策）を講じる。 （例） ・ 個人情報を取り扱う機器等のオペレーティングシステムを最新の状態に保持する。 ・ 個人情報を取り扱う機器等にセキュリティ対策ソフトウェア等を導入し、自動更新機能等の活用により、これを最新状態とする。
	11	個人情報を取り扱うサーバー等の機器を管理している場合は、アクセスログ等を定期的に確認、またはアクセス状況を監視し、一定量以上の情報が情報システムからダウンロードされた場合に警告表示されるなどの機能の設定、定期確認などを行う。アクセスログについては、その記録の改ざん・不正な消去の防止等を講じる。
	12	（該当ある場合）業務上、情報システムで個人情報を取り扱う場合は、入力情報の照合（入力原票や既存の情報等との照合）を行う。
	13	（該当ある場合）業務上、個人情報を取り扱う情報システムの設計・開発・運用保守を伴う場合は、当該情報システムの設計書、構成図等の文書が外部に知られないような対策をする。
	14	取り扱う個人情報のバックアップを作成し、外部からの不正アクセス等を防止するための措置（セキュリティ対策）を講じる。
	15	情報システムの使用に伴う漏えい等を防止するための措置を講じる。 （例） ・ メール等により個人データの含まれるファイルを送信する場合に、当該ファイルへのパスワードを設定する。

2 情報セキュリティ対策

本業務を実施するにあたって、次に示す情報セキュリティ対策を実施する²。

大項目	No.	小項目
Part1.技術的対策	1	業務で使用する機器の OS やソフトウェアは常に最新の状態とする。
	2	業務で使用する機器にはウイルス対策ソフトを導入し、ウイルス定義ファイル（セキュリティソフトがマルウェアを検出するための定義情報が入ったファイル）が自動更新されるよう設定する。
	3	業務で使用する機器、サービス及びシステムにログインする際のパスワードは、強固なパスワードを設定する。 (例) ・ 10 桁以上で「できるだけ長く」、大文字、小文字、数字、記号含めて「複雑に」し、複数のサービス間で使いまわさない。 ・ 可能な場合は多段階認証や多要素認証を利用する。
	4	情報へのアクセス（データ保管などのウェブサービス及びサービス上での共有設定等）を業務上必要な者のみがアクセスできるよう設定する。
	5	脅威や攻撃の手口を知り、対策に活かす。
Part2.業務従事者としての対策	6	不審な電子メールの添付ファイルや URL を安易に開かない。
	7	電子メールの送信先を確認し、送信ミスを防ぐ。
	8	秘密情報 ³ を送信する際には、メール本文ではなく添付ファイルに記述しパスワードで保護する。パスワードは予め決めておくか、携帯電話の SMS（ショートメッセージサービス）等の別手段で通知する。

² 独立行政法人情報処理推進機構（IPA）より公開されている「中小企業の情報セキュリティ対策ガイドライン」参照のこと。（<https://www.ipa.go.jp/security/guide/sme/about.html>）

³ 秘密情報とは、受託者が、本業務を実施する上で、発注者その他本業務の関係者から、文書、口頭、電磁的記録媒体その他開示の方法及び媒体を問わず、また、本契約締結の前後を問わず、開示された一切の情報。ただし、次の各号に定める情報については、この限りでない。

- （１）開示を受けた時に既に公知であったもの
- （２）開示を受けた時に既に受託者が所有していたもの
- （３）開示を受けた後に受託者の責に帰さない事由により公知となったもの
- （４）開示を受けた後に第三者から秘密保持義務を負うことなく適法に取得したもの
- （５）開示の前後を問わず、受託者が独自に開発したことを証明するもの
- （６）法令並びに政府機関及び裁判所等の公の機関の命令により開示が義務付けられたもの
- （７）第三者への開示につき、発注者又は秘密情報の権限ある保持者から開示について事前の承認があったもの

	9	業務で無線 LAN を利用する場合は、安全に利用するために無線 LAN のセキュリティ設定をする。 (例) ・ 強固な暗号化方式 (WPA2、WPA3) を選択する。 ・ Wi-Fi ルーター設定のための管理用パスワードを強固で推測されにくいものにする。
	10	業務でのインターネット利用する際の注意、制限をルール化し遵守する。
	11	秘密情報のバックアップを定期的に行う。
	12	秘密情報は机の上等に放置せず、不要時は鍵付き書庫に保管する。
	13	秘密情報の持ち出し時は、PC、スマートフォンなどはパスワードロックをかける等、盗難や紛失の対策を実施する。
	14	離席時・退社時に他人が PC を使えない状態にする (スクリーンロックやシャットダウンをする等)。
	15	執務室への関係者以外の立ち入りを禁止する。
	16	機器・備品の盗難防止対策を行う。
	17	作業場所の施錠忘れ対策を行う (最終退出者は、施錠し退出の記録を残す等)。
	18	秘密情報の記録された媒体を破棄する際には、復元できないように消去し、書面で発注者に報告する。
Part3.組織的対策	19	業務従事者 (受託者が個人の場合はその本人 (以下同様)) に守秘義務を徹底する。
	20	業務従事者にセキュリティに関する教育や注意喚起を行う。
	21	個人所有の情報機器の業務利用は行わない。やむを得ず利用する場合は、セキュリティ対策を徹底する。
	22	再委託先等との契約において秘密保持や情報セキュリティ対応方針に関する文書を取り交わし、対策状況を確認する。
	23	クラウドサービス等の外部サービスを利用する場合には、安全性・信頼性を把握し選定する。
	24	生成 AI を利用する場合には、安全性・信頼性を把握し選定する。
	25	セキュリティインシデントの発生に備えて緊急時の体制整備や対応手順を作成する。
	26	情報セキュリティ対策に関するルールを明文化し、組織内に周

		知する ⁴ 。
--	--	--------------------

以上

⁴ 受託者が個人の場合は、自らの情報セキュリティに関する行動指針を明確にし、日常的に意識・実践する。

個人情報保護及び情報セキュリティに関する情報

1 個人情報取扱い安全管理措置並びに情報セキュリティ対策に関する管理体制・作業場所

(1) 管理体制¹：

- 本業務における個人情報取扱い安全管理措置並びに情報セキュリティ対策に関する管理体制は、次に示すものとする。

	氏名 ²	連絡先 (Tel)
情報セキュリティ責任者		
個人情報保護管理者		
品質保証管理者		

- * 情報セキュリティ責任者：情報セキュリティ対策などの決定権限を有するとともに、全責任を負う。
- * 個人情報保護管理者：個人情報の取扱いについて関連法令を遵守する責任を負う。
- * 品質保証管理者：提供する製品・サービスの品質において全責任を負う（情報システムに関する内容を含む契約のみ記入が必要）。

- 個人情報の漏えいを含む情報セキュリティインシデントが発生した場合の窓口は、次に示すものとする。事案が発生又はそのおそれがある場合は速やかに発注者に報告し、発注者の指示に従う。

氏名	連絡先 (Tel)

(2) 業務作業場所³：

2 個人情報取扱い安全管理措置並びに情報セキュリティ対策に関する履行状況の確認（定期的報告）

個人情報取扱い安全管理措置並びに情報セキュリティ対策の履行状況について確認を行う⁴。

¹ 管理体制は体制図等を別紙で提出することでも可とする。また、要員に交代がある時には、再度管理体制について提出する。

² 受託者が個人の場合は、すべてその本人の名前を記載することにより。

³ 記載例：国際協力機構の麹町本部、受託者の執務室等 ※可能な限り具体的に記載

⁴ 再委託先がある場合は、受託者が再委託先に対して、再委託先の個人情報の取り扱いに際し講ずべき安全管理措置の履行状況及び情報セキュリティ対策の履行状況について確認を行い、発注者に報告する。

(1) 履行状況の確認方法： ☐ 会議体による報告（議事録を残すものに限る）
☐ 書面による報告
☐ その他 _____

(2) 履行状況の確認頻度： ☐ ____ヶ月に1回 ☐ 1年に1回
☐ その他 _____

以上